

日高自動車道(しず ない 静内 ～ みつ いし 三石)

第2回 説明資料

令和2年7月15日

国土交通省 北海道開発局

目 次

1. 計画段階評価の検討の流れ
2. 第1回地域意見聴取結果
3. 地域意見を踏まえた政策目標
4. 路線の整備方針（案）
5. 第2回地域意見聴取方法

1. 計画段階評価の検討の流れ

1-1) 北海道の高規格幹線道路網

○日高自動車道は、苫小牧市を起点として厚真町、むかわ町、日高町、新冠町、新ひだか町を經由し、浦河町へ至る延長約120kmの一般国道の自動車専用道路で、静内～三石間はその一部区間。

○当該区間は、苫小牧市～浦河町間のうち、新ひだか町静内～新ひだか町三石間の延長約22kmの区間。

凡 例	
開 通 区 間	
事業中区間	
調査中区間	
総合振興局 振興局	

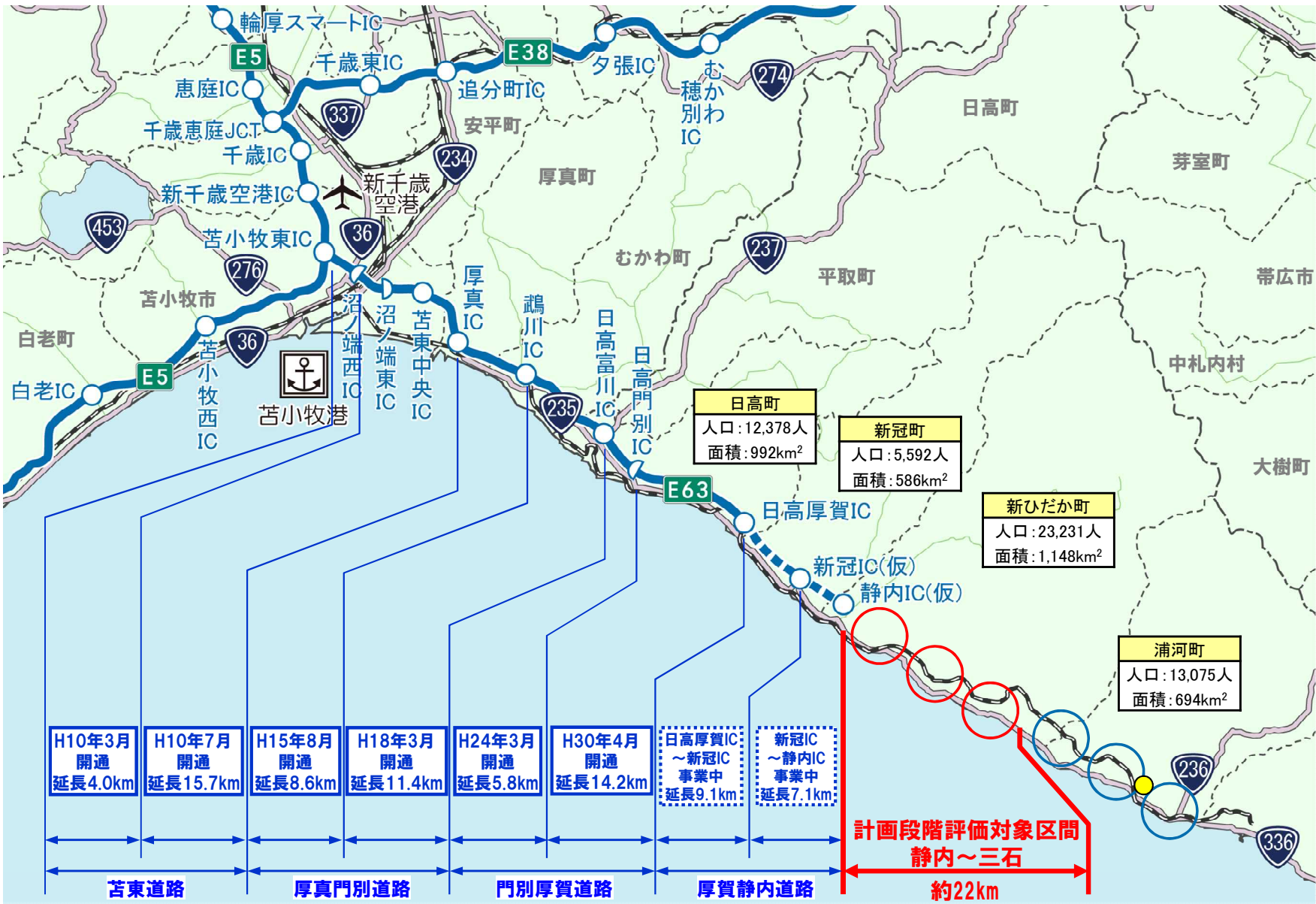
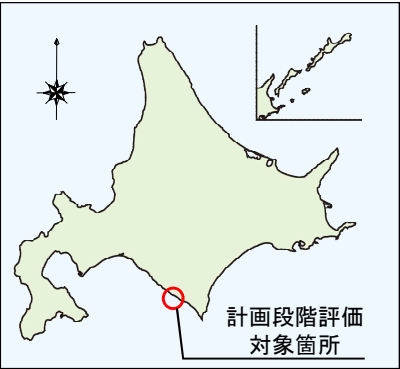


1-2) 日高自動車道の進捗

- 日高自動車道は、苫小牧東IC～日高厚賀IC間が開通済み（日高厚賀 I Cは平成30年4月開通）。
- 日高厚賀 I C～静内 I C（仮）間は早期開通に向け、現在事業中。

凡 例	
開 通 区 間	
事業中区間	
調査中区間	
総合振興局 振興局	

▼位置図



1-3) 計画段階評価の手続きの進め方(案)

- 令和2年2月17日から約4週間、地域意見聴取を実施。
- 本委員会は地域意見聴取を踏まえた政策目標の設定および、路線の整備方針等について議論。

【令和元年12月11日】

【令和2年2月17日
～3月13日】

今回

北海道
地方小委員会

- 【審議内容】
- 計画段階評価
手続きの進め方
- 地域・道路の
現状と課題
- 地域意見聴取方法
(案)

地域意見聴取
(第1回)

- 地域・道路の課題
- ◆意見聴取方法
＜ヒアリング＞
対象者
・沿線自治体等
・関係団体
- ＜アンケート＞
対象者
・地域住民
・道路利用者

北海道
地方小委員会

- 【審議内容】
- 地域意見聴取の結果
- 地域意見を踏まえた
路線の政策目標
- 地域意見を踏まえた
路線の整備方針(案)
- 比較ルート(案)
(複数案)
- 地域意見聴取方法
(案)

地域意見聴取
(第2回)

- 路線の整備方針
- ◆意見聴取方法
＜ヒアリング＞
対象者
・沿線自治体等
・関係団体
- ＜アンケート＞
対象者
・地域住民
・道路利用者

北海道
地方小委員会

- 【審議内容】
- 地域意見聴取の
結果
- 対応方針(案)
の検討

対応方針の決定
(概略ルート・構造等)

北海道地方小委員会

※各段階で随時自治体と調整

1-4) 前回委員会での主な意見と対応

■第1回計画段階評価（第22回北海道地方小委員会）の概要

実施日 令和元年12月11日（水）		
議事内容		
○地域の概況	○地域の状況と課題	○道路の状況と課題
○課題の整理	○意見聴取方法	

■主な意見と対応状況

主な意見	対 応	資料
・国内有数の競走馬の産地であり、道路が整備されると競走馬の輸送にどう役立つのか関係団体へ丁寧にヒアリングすべき。	・関係機関へのヒアリングを踏まえ、軽種馬の救急搬送や種付け輸送時に期待される効果を追記。	参考資料1:P17
・十勝圏では帯広・広尾自動車道の整備も進んでおり、計画段階評価の対象区間だけでなく、これらの道路ネットワークも含めどう活用していくべきか、意見聴取に際して考慮すべき。	・十勝圏との連携について関係機関ヒアリングで補足し、先線整備時も含め「道東、十勝圏との周遊観光にも期待ができる」との意見を受けた。	資料2:P20
・地域の課題解決という視点だけでなく、地域の目指す将来像を具体化できるよう意見聴取を進めるべき。例えば、日高地域には付加価値の高い水産品等が多くあるので、それらの産品をその日の内に国内や海外の消費地へ届ける等の将来像も考えられるのではないかな。	・関係機関へのヒアリングを踏まえ、水産物の付加価値向上や販路拡大等の将来計画を見据えた必要性に関する文章を追記。	参考資料1:P19
・津波等の課題を踏まえると山側に別線整備を行うルート等が考えられるが、費用対効果だけでなく、地域公共交通の確保や代替性の確保等、整備効果をしっかり見せていくことが重要。	・整備効果については、比較ルート案に関する第2回アンケート結果を踏まえて今後検討予定。	資料2:P33
・今後のルート検討に際してヒントになるような意見をいただけるよう、聞き方を工夫していくと良いのではないかな。	・ルート検討にあたってのコントロールポイントや重視する視点・配慮すべき事項等を住民が的確にわかりやすく理解できるようアンケート(案)を設計。	資料2:P37～P42

2. 第1回地域意見聴取結果

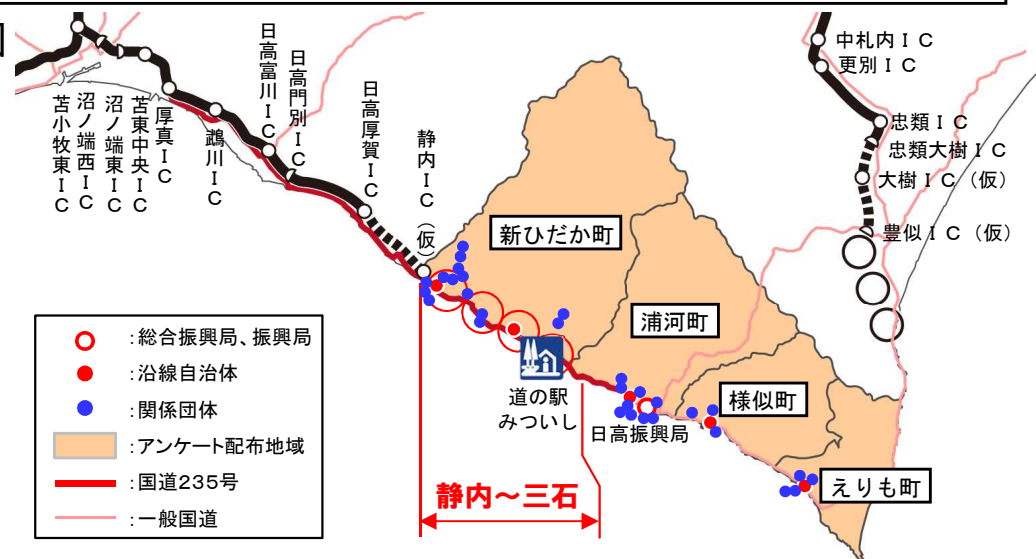
2-1) 第1回地域意見聴取の概要

○第1回地域意見聴取は、住民・道路利用者へのアンケート調査、および沿線自治体・関係団体へのヒアリング調査を実施。

■地域意見聴取期間

令和2年2月17日(月)～3月13日(金)

■アンケート配布範囲



■地域意見聴取の対象

アンケート調査			
住民・道路利用者	配布	全戸配布、郵送回収	新ひだか町約11,000世帯、浦河町約6,200世帯 様似町約2,000世帯、えりも町約2,000世帯 合計約21,200世帯
	留置き	町役場(新ひだか町静内庁舎及び三石庁舎、浦河町、様似町、えりも町)および道の駅(みついし)に調査票を常設、郵送または投函箱による回収	合計 6箇所
	Web	北海道開発局室蘭開発建設部のホームページに開設	広く意見を聴取

ヒアリング調査			
団体代表者	沿線自治体等	日高振興局、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町	合計 5団体
	関係団体	商工会等(4箇所)、観光協会(4箇所) 農業協同組合(3箇所)、農業協同組合女性部(2箇所) 漁業協同組合(3箇所)、漁業協同組合女性部(2箇所) 森林組合(3箇所)、日高軽種馬農業協同組合、日高獣医師会 消防本部・消防組合(2箇所)、病院(3箇所)、室蘭地区トラック協会、室蘭地区バス協会、陸上自衛隊静内駐屯地 北海道軽種馬輸送事業協同組合	合計 32箇所

2-2) 第1回地域意見聴取の実施状況(アンケート調査)

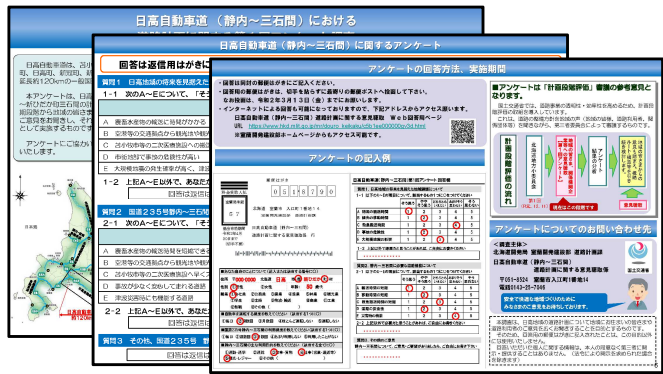
○地域住民・道路利用者に対して、日高地域の将来を見据えた地域の課題と静内～三石間に必要な道路機能について、アンケート調査を実施。

■地域意見聴取内容

回答者属性（住所、性別、年齢、職業、自動車運転頻度、静内～三石間の利用頻度・利用目的）

- 問1 日高地域の将来を見据えた地域課題について
- 問2 静内～三石間に必要な道路機能について
- 問3 その他静内～三石間についての意見・要望について（自由意見）

■配布形式調査票



■自治体HP掲載状況



浦河町HP

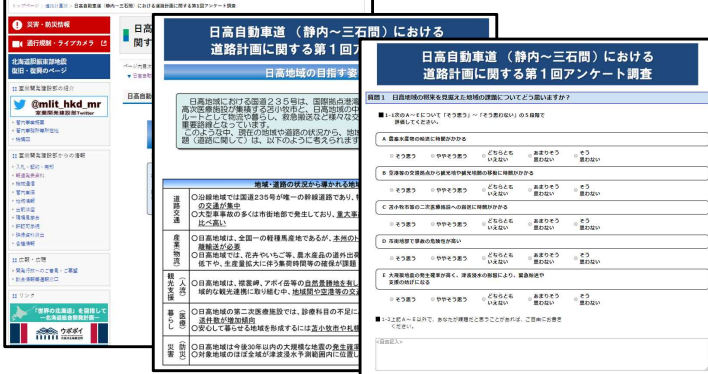


様似町HP



えりも町HP

■Web(室蘭開発建設部HP)



■留置き状況



新ひだか町（静内庁舎）



新ひだか町（三石庁舎）



道の駅みついし

2-3) 第1回地域意見聴取の実施状況(ヒアリング調査)

○沿線自治体・関係団体に対して、日高地域の将来を見据えた地域の課題と日高自動車道（静内～三石間）に必要な道路機能について、ヒアリング調査を実施。

■意見聴取内容

- 問 1 日高地域の将来を見据えた地域課題について
- 問 2 静内～三石間に必要な道路機能について（理由、課題の実態）
- 問 3 その他静内～三石間についての意見や要望について

■実施状況

調査対象			実施数
沿線自治体等			5箇所
関係団体	産業団体	商工会等	4箇所
		農林畜水産業関連	14箇所
		物流関連	2箇所
		バス・観光関連	5箇所
	医療・消防	病院	4箇所
		自衛隊・消防	3箇所
合計			37箇所



(沿線自治体)



(漁業協同組合)



(自衛隊)



(消防本部)

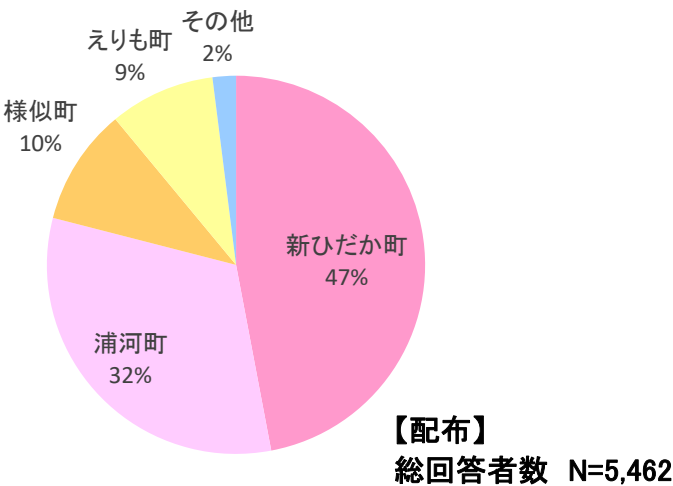
2-4) 第1回地域意見聴取の結果 アンケート調査(回収状況・居住地)

○全回収数は5,803人で、配布形式は5,462人、留置きは179人、Webは162人が回答。
○回答者の居住地は、沿線自治体98%、その他の日高地域の市町村および日高地域以外の道内・道外が2%。

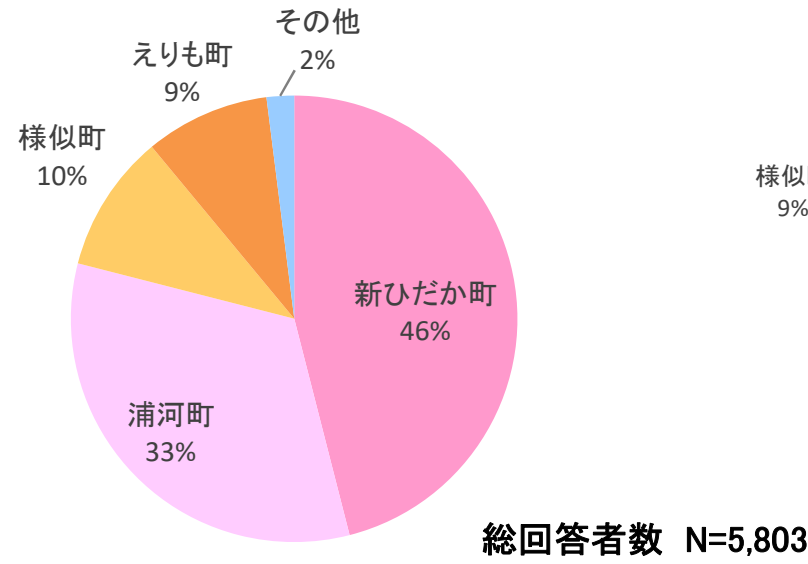
▼調査票回収状況

調査形式	配布数	回収数	回収率
配布(沿線自治体)	21,145票	5,462票	26%
留置き(沿線自治体、道の駅)	—	179票	—
Web	—	162票	—
合計	21,145票	5,803票	—

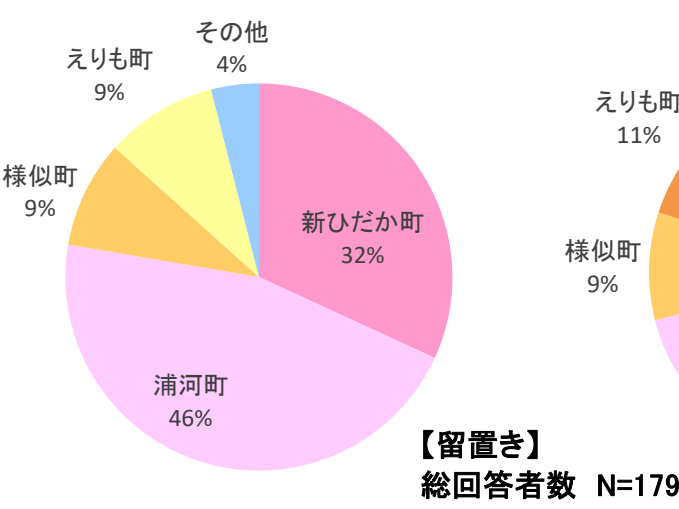
▼居住地(配布)



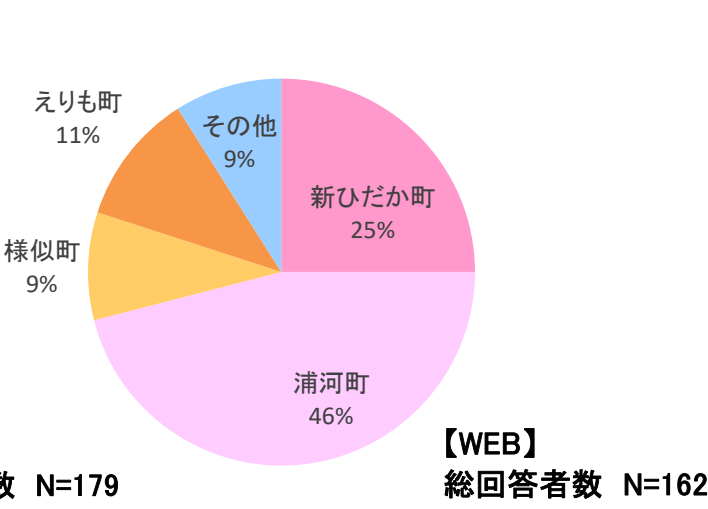
▼回答者居住地



▼居住地(留置き)

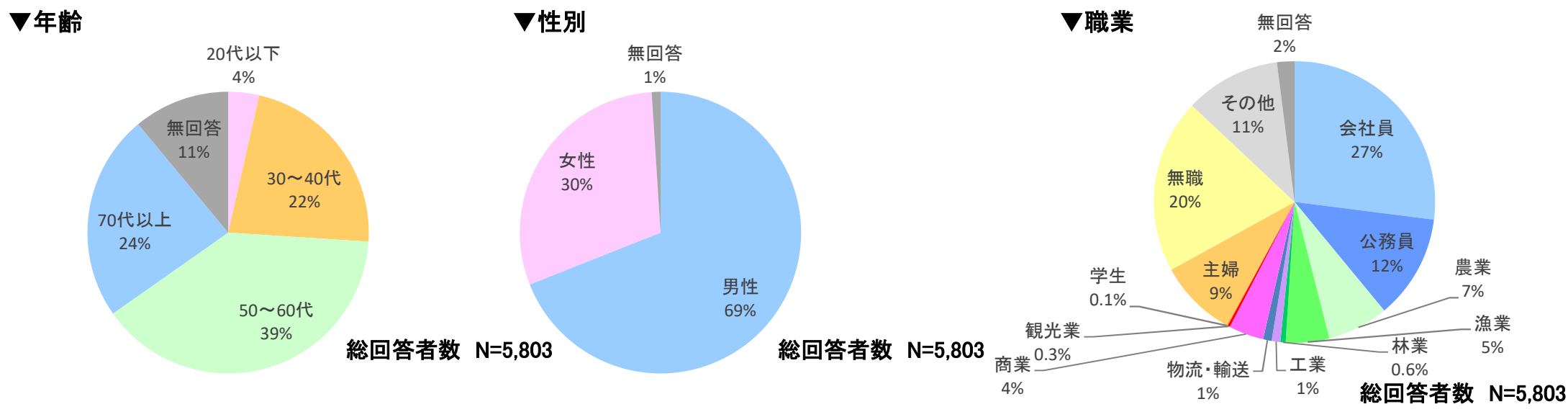


▼居住地(Web)

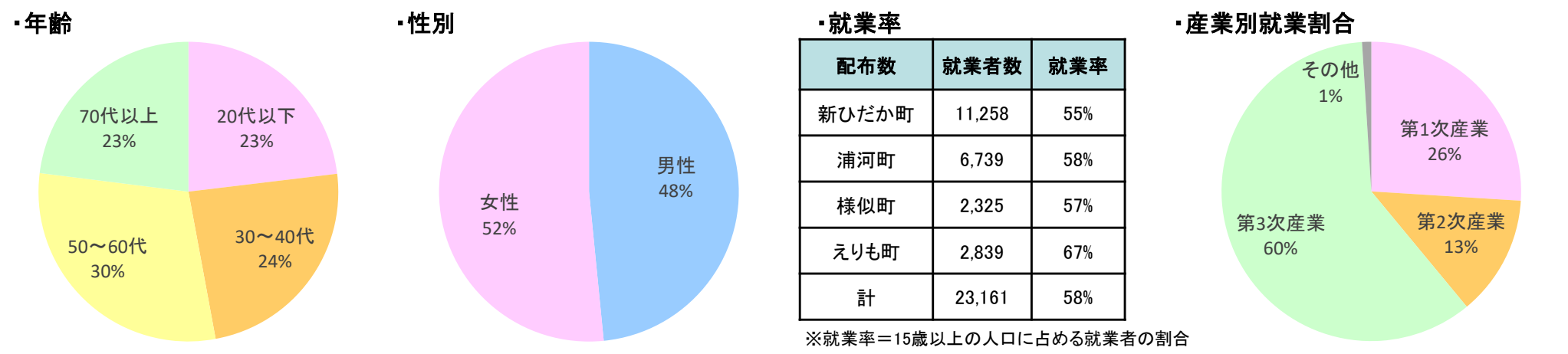


2-5) 第1回地域意見聴取の結果 アンケート調査(回答者属性)

○年齢構成は50代以上が6割以上を占め、性別では男性が約7割と高くなっており、若年層や女性からの回答割合が低い状況。
○職業については、会社員が約3割で最も多く、次いで70代以上と想定される無職が20%、公務員が12%。



【参考】沿線自治体(新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町)の統計データ



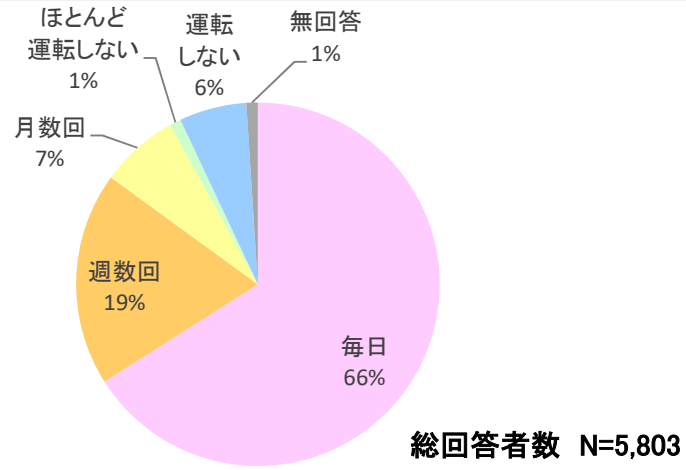
※就業率=15歳以上の人口に占める就業者の割合

2-6) 第1回地域意見聴取の結果 アンケート調査(利用頻度等)

- 自動車運転頻度は、回答者の約7割が毎日運転と回答。
- 静内～三石間の利用頻度は、毎日～月数回の高頻度利用者が約8割を占めている。
- 静内～三石間の利用目的は、家事・買物、観光・レジャー、仕事(営業・運送等)、通院の順で多くなっている。

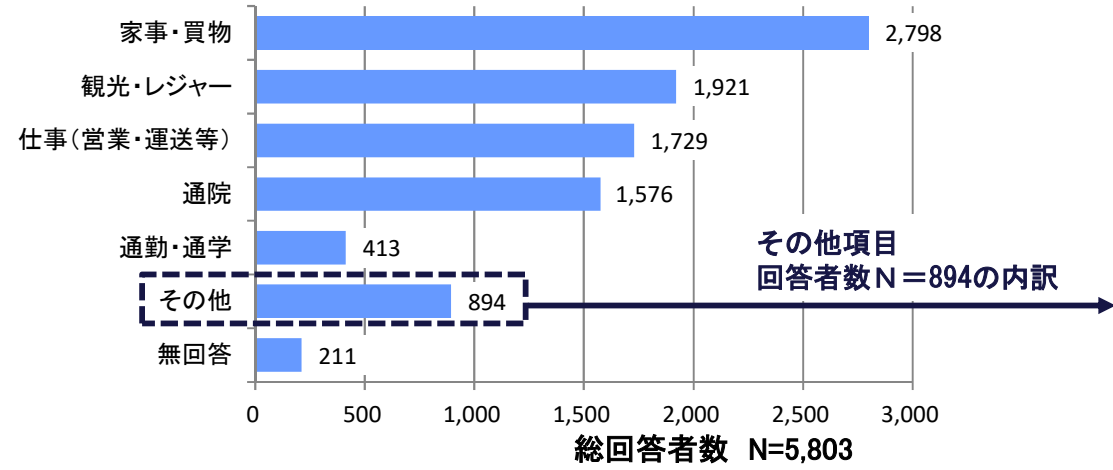
▼自動車を運転する頻度

質問. 自動車を運転する頻度を教えてください(単数回答)



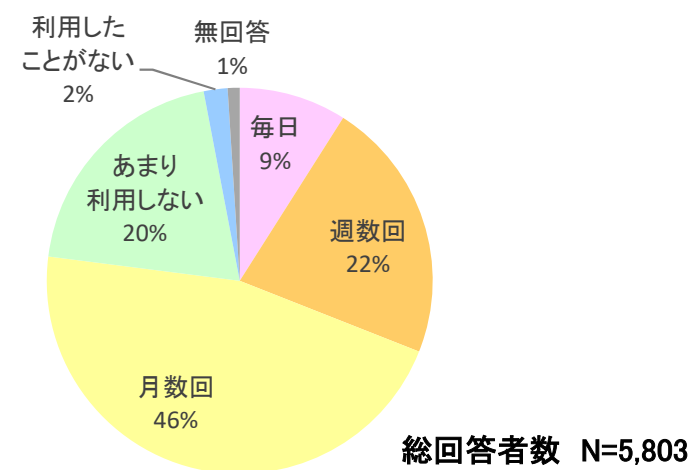
▼静内～三石間の利用目的

質問. 静内～三石間の主な利用目的を教えてください(複数回答)

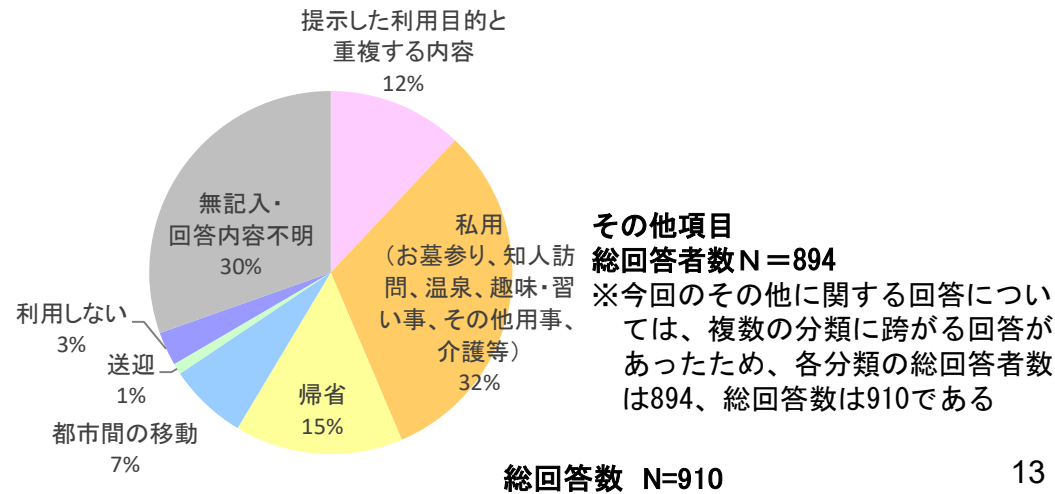


▼国道235号静内～三石間の利用頻度

質問. 国道235号静内～三石間の利用頻度を教えてください(単数回答)



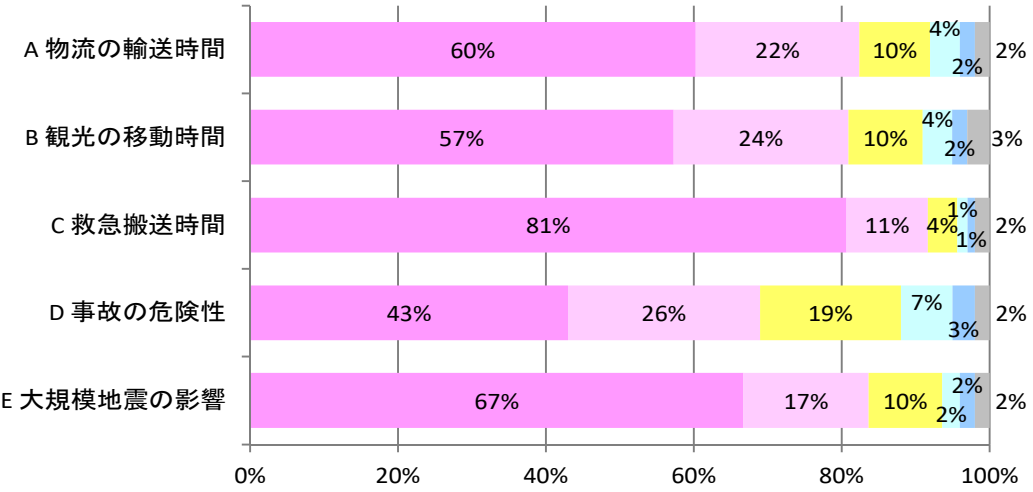
▼静内～三石間の利用目的(その他項目の回答内容)



2-7) 第1回地域意見聴取の結果 アンケート調査(将来を見据えた地域の課題)

○日高地域の将来を見据えた地域の課題については、各課題全てに対し、約7割以上が課題と感じている。
○特に、「救急搬送時間」や、「大規模地震の影響」について課題として感じている意見が多い。

▼将来を見据えた地域の課題について



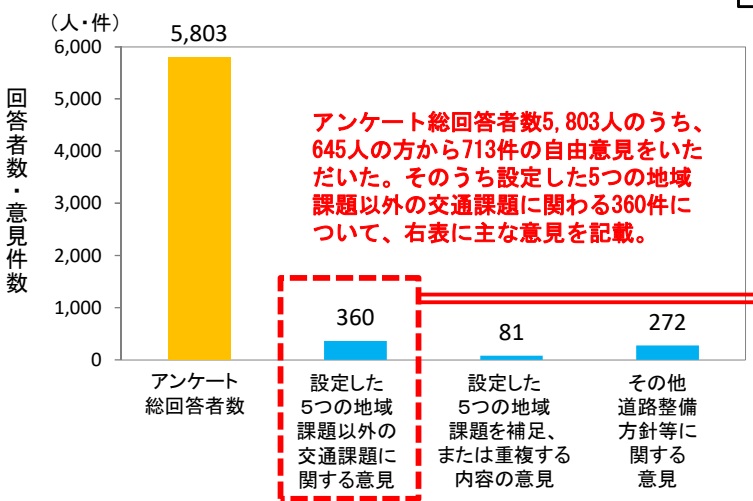
■「そう思う」 ■「ややそう思う」 ■「どちらともいえない」 ■「あまりそう思わない」 ■「そう思わない」 ■「無回答」

総回答者数 N = 5,803人

質問1-1.
日高地域の将来を見据えた地域の課題についてどう思いますか。
次のA～Eについて、「そう思う」～「そう思わない」の5段階で評価して下さい。

- A 農畜水産物の輸送に時間がかかる
- B 空港等の交通拠点から観光地や観光地間の移動に時間がかかる
- C 苫小牧市等の二次医療施設への搬送に時間がかかる
- D 市街地部で事故の危険性が高い
- E 大規模地震の発生確率が高く、津波浸水の影響により、救急搬送や支援の妨げになる

▼その他の課題



アンケート総回答者数5,803人のうち、645人の方から713件の自由意見をいただいた。そのうち設定した5つの地域課題以外の交通課題に関わる360件について、右表に主な意見を記載。

自由意見回答者数 645人、総意見数 713件

※1人の回答者が複数の分類に関する記載をしている場合もあるため、各分類の回答者は重複している。

質問1-2. 上記A～E以外で、あなたが課題だと思うことがあれば、ご自由にお書きください。(自由記述)

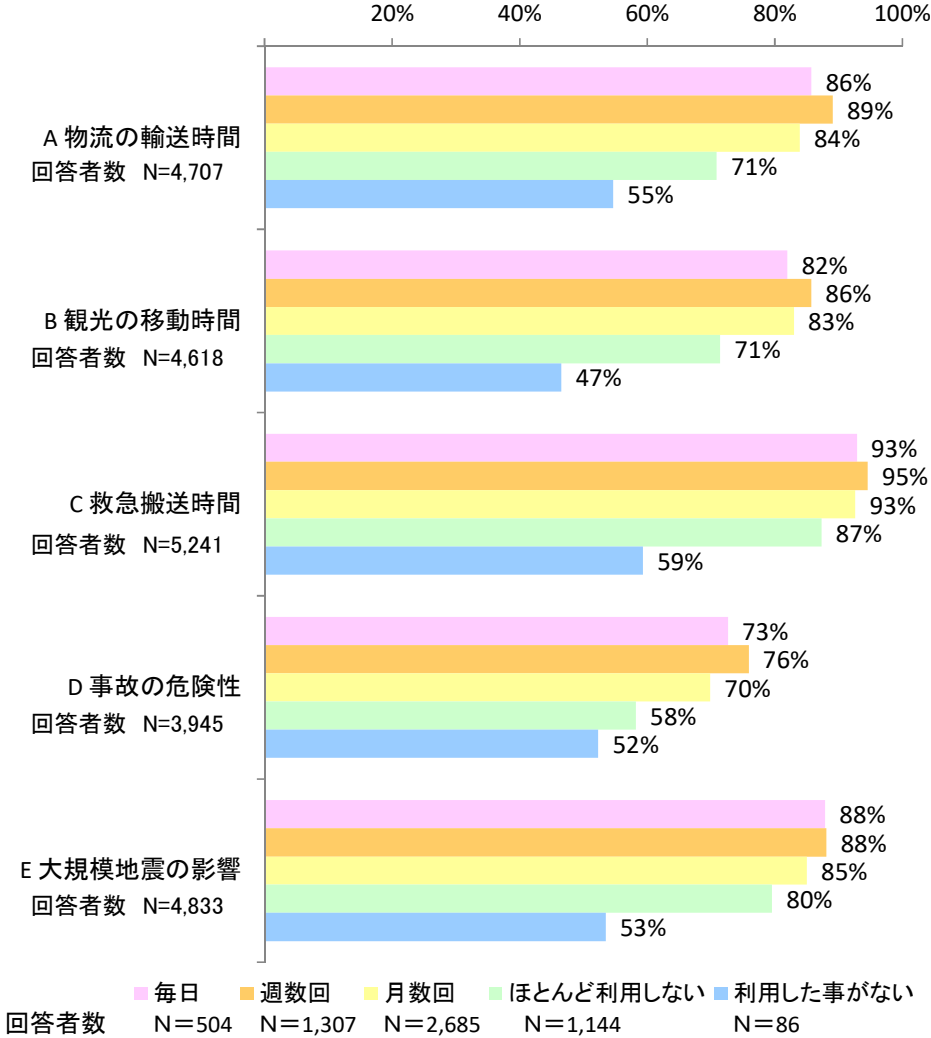
分類	主な意見
安全性・走行性【104件】	・道幅が狭く、大型車も沢山通るので危険。
防災【78件】	・現在の国道・道道だと悪天候時に通行止めになる事が多く、移動が制限される。
アクセス・交通機能【94件】	・現在、月数回札幌に通院しなければならない状況で、少しでも移動時間を減らして体への負担も減らしたいところです。
生産空間維持【42件】	・人口が減っていつているので、将来住民の生活にも影響があると思う。
地域振興【14件】	・観光地等、魅力的なスポットが無いため、この地区に魅力が全く感じられない。だが、近距離になれば、幾分かは人が集まりやすくなるかと思う。
その他(景観・環境への影響、維持管理等)【28件】	・道路の凸凹が多いこと。

2-8) 第1回地域意見聴取の結果 アンケート調査(利用頻度別地域課題)

○ 静内～三石間の地域課題を利用頻度別にみると、利用頻度が高い回答者の賛同意見割合が高い状況。
○ 静内～三石間の高頻度利用者(毎日・週数回・月数回)の賛同意見割合は、居住地によって大きな差はみられないものの、沿線自治体では「救急搬送時間」、「物流の輸送時間」、「大規模地震への影響」への賛同割合が多い。

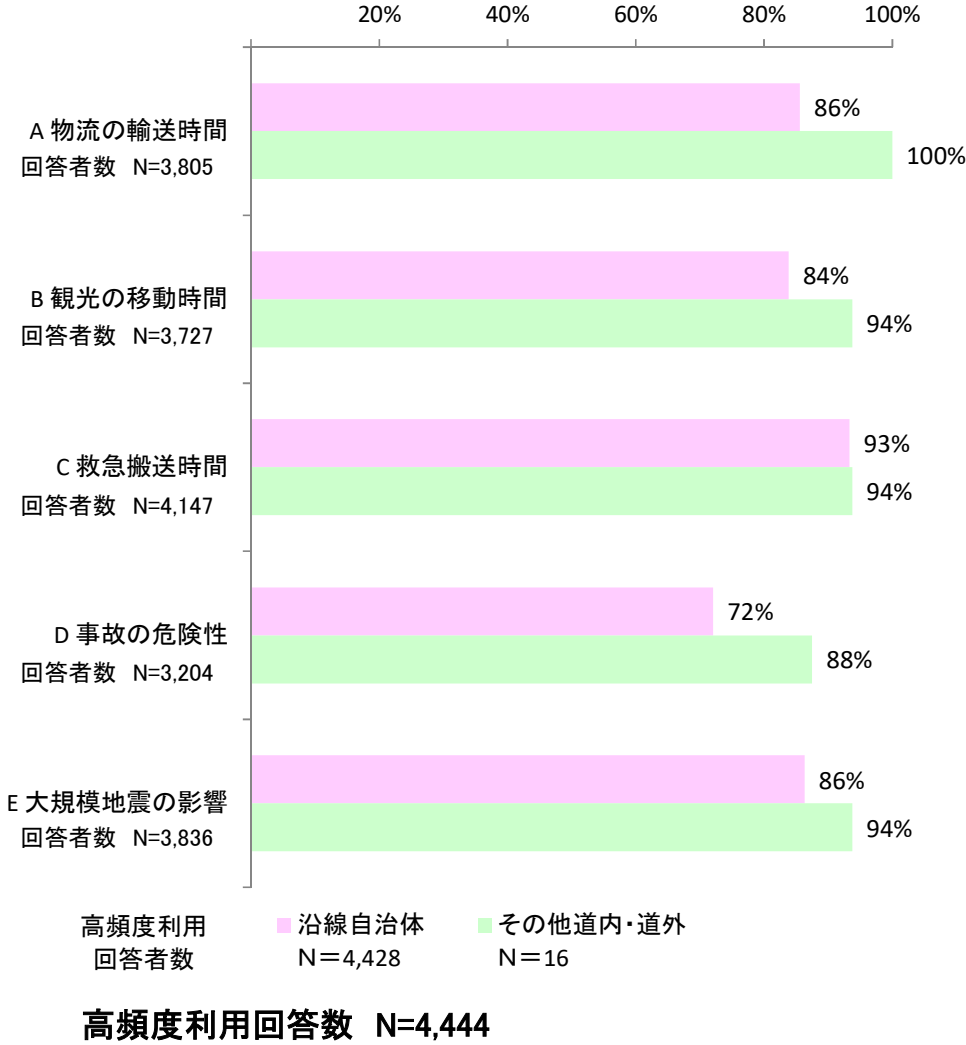
▼ 静内～三石間利用頻度別の賛同意見割合

(「そう思う」または「ややそう思う」と回答した回答者の割合)



▼ 静内～三石間高頻度(毎日・週数回・月数回)利用者における

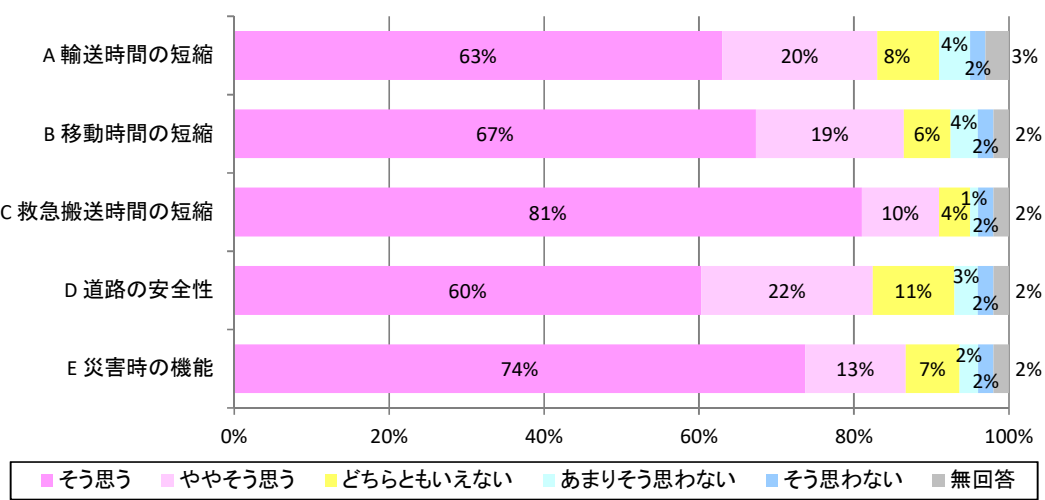
居住地別の賛同意見割合 (「そう思う」または「ややそう思う」と回答した回答者の割合)



2-9) 第1回地域意見聴取の結果 アンケート調査(静内～三石間に必要な道路機能)

○静内～三石間に必要な道路機能については、各機能に対して約8割～9割が必要を感じている傾向。
○特に「救急搬送時間の短縮」や「災害時の機能」について必要と感じる意見が多い。

▼静内～三石間に必要な道路機能について

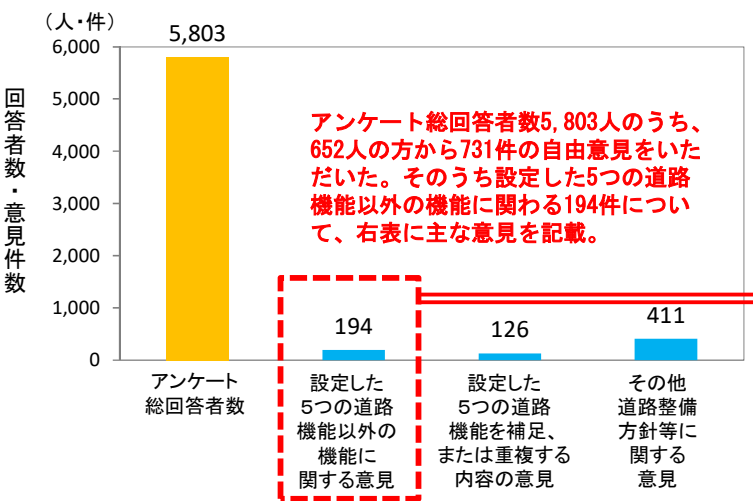


質問2-1.
国道235号静内～三石間に必要な道路機能はどのような道路だと思いますか。
次のA～Eについて、「そう思う」～「そう思わない」の5段階で評価して下さい。）

A 農畜水産物の輸送時間を短縮できる道路
B 空港等の交通拠点から観光地や観光地間を早くスムーズに移動可能な道路
C 苫小牧市等の二次医療施設へ早くスムーズに搬送可能な道路
D 事故が少なく安心して走れる道路
E 津波災害時にも機能する道路

総回答者数 N = 5,803

▼その他の道路に求められる機能



質問2-2. 上記A～E以外で、あなたが必要だと思うことがあればご自由にお書き下さい。(自由記述)

分類	主な意見
安全性・走行性【58件】	・静内～三石間は屈曲した道路が大半でスムーズに走れる道路になって欲しい。
防災【38件】	・陸の孤島にならない様に安心して走れる道路が必要。
アクセス・交通機能【56件】	・年寄りの通院等、三石の病院では厳しく苫小牧、札幌へのアクセス改善が必要。
生産空間維持【16件】	・都市への移動に時間がかかると過疎化に繋がる。
地域振興【23件】	・十勝の自動車道とつながったら、観光につながる。
その他(景観・環境への影響、維持管理等)【3件】	・人の飛び出しがない、住宅街を走らない道路。

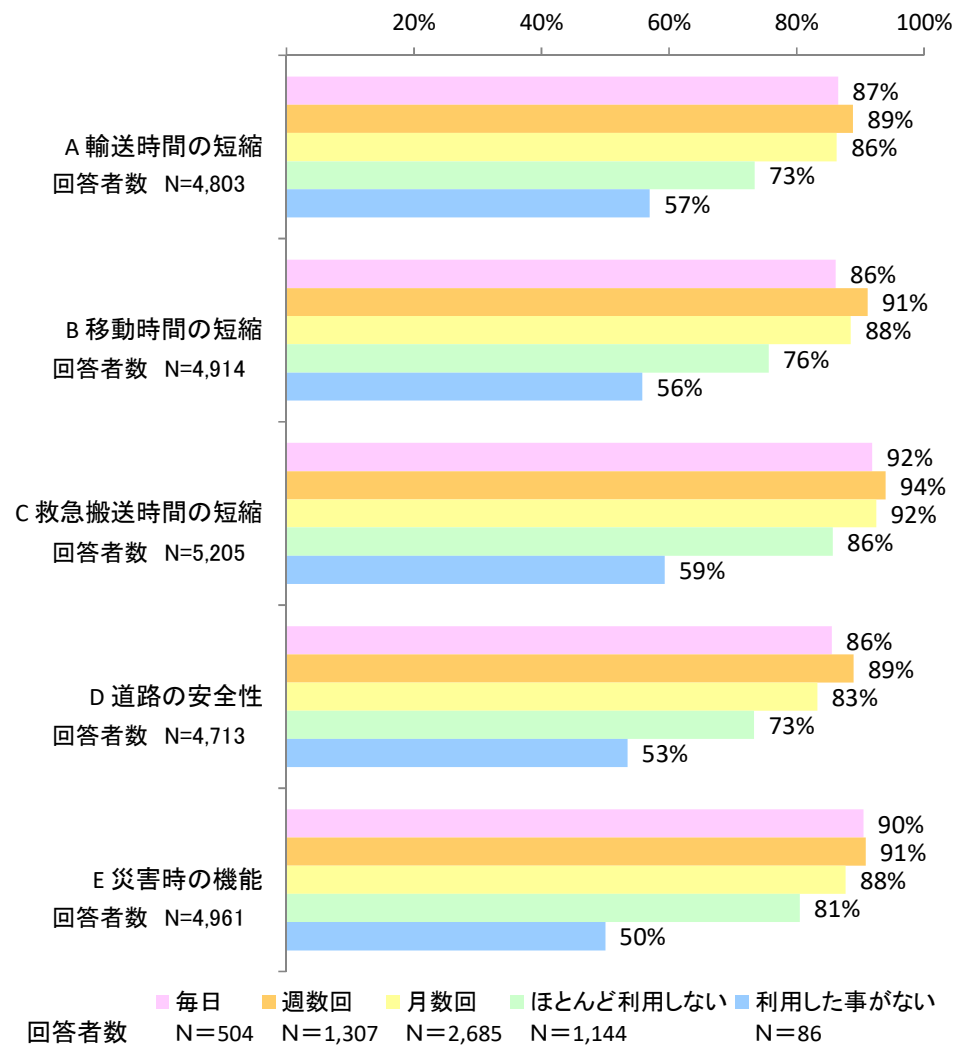
自由意見回答者数 652人、総意見数 731件

※1人の回答者が複数の分類に関する記載をしている場合もあるため、各分類の回答者は重複している。

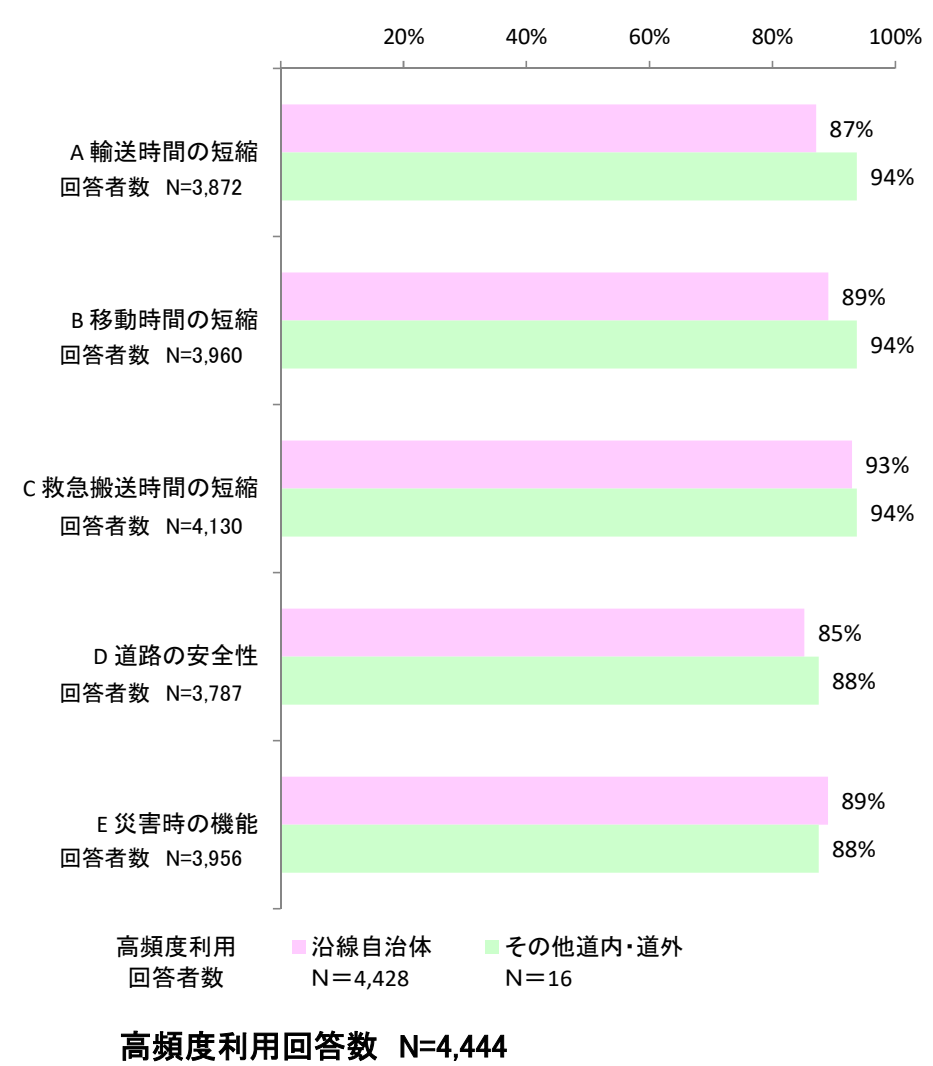
2-10) 第1回地域意見聴取の結果 アンケート調査(利用頻度別道路機能)

○ 静内～三石間の道路機能を利用頻度別にみると、利用頻度の高い回答者の賛同意見割合が高い状況。
○ 静内～三石間の高頻度利用者(毎日・週数回・月数回)の賛同意見割合を居住地別にみると、「災害時の機能」に対する沿線自治体の賛同割合は、他地域に比べて高い傾向。

▼ 静内～三石間利用頻度別の賛同意見割合
(「そう思う」または「ややそう思う」と回答した回答者の割合)



▼ 静内～三石間高頻度(毎日・週数回・月数回)利用者における居住地別の賛同意見割合 (「そう思う」または「ややそう思う」と回答した回答者の割合)



2-11) 第1回地域意見聴取の結果 アンケート調査(自由回答)

- その他の意見・要望としては、早期着工・開通への要望や整備方針に関する意見が寄せられた。
- 一方で、現道の整備や既存道路の機能強化に関する意見も寄せられている。

▼その他の意見・要望

質問3. その他、静内～三石間について、ご意見やご要望がありましたら、ご自由にお書き下さい。(自由記述)

主な意見

- ・JR線が事実上廃線となった現在、日高地方と都市部や空港を結ぶ高速道路の必要性はますます高まっています。1日でも早い開通をお願いします。
- ・国道235号が不通になると陸の孤島になってしまう。防災上、自動車道の延伸をして欲しい。緊急を要することだと思う。
- ・津波浸水で緊急輸送の妨げが心配。早く自動車専用道路ができてほしいです。
- ・専門治療を受けるため、定期的に苫小牧まで通院しています。医療の格差を少しでも無くすため、早期に開通してくれることを願ってます。
- ・国道はカーブが多く、走行しにくい。見通しも悪い。早く日高自動車道を伸ばしてほしい。
- ・コンブ漁の路駐や街中の狭い国道で死亡事故なども多く発生していて、大変危険なので早期の開通を望みます。
- ・地域産業の生き残りでは物流が問題になります。1日も早く工事を進めてほしい。
- ・これ以上人口の流出、高齢化が進む前に開通してほしい。
- ・IC(仮)は津波を考慮しつつ高台で国道に近い方が望ましいと思います。
- ・馬運車等、物流トラックが多く、詰まることが多いため、少なくともIC間に1ヶ所は追越車線を敷いて頂きたい。
- ・日高自動車道について、静内三石間に限らずパーキング(トイレ)を設置してほしい。
- ・この区間は多数の牧場があり、軽種馬生産に影響がないよう整備を進めていただきたい。また牧場を横断する国内唯一の自動車道として景観に配慮してほしい。
- ・静内～三石間だけを考えるのであれば整備効果が少ないので、計画区間外となっている様似町、えりも町も含めて日高道全区間の必要性を検討したほうが良い。また、日高道だけではなく、国道235・236・336号のカーブがきつい区間、幅が狭い区間などの整備も進めてほしい。
- ・早期開通と進捗状況を広く公表してほしい。
- ・人口減少が進むなか、所要時間短縮と建設コストを見比べたとき、本当に必要な事業なのか疑問である。
- ・自動車道はたしかに良いと思うけど、通過するだけの町はサビれる。今のR235の整備優先で！

総回答者数 1,755人, 総意見数 2,123件

※掲載件数は意見件数の1% (1件以下切り上げ)

2-12) 第1回地域意見聴取の結果 ヒアリング調査(将来を見据えた地域の課題)

○日高地域の将来を見据えた地域の課題については、特に「物流の輸送時間」、「大規模地震の影響」への意見が多く寄せられた。

▼将来を見据えた地域の課題について 質問1－1. 日高地域の将来を見据えた地域の課題についてどう思いますか。

項目	自治体	商工会議所 商工会	農協・漁協 森林組合	運輸	バス・ 観光	病院・自衛隊 消防
A. 物流の輸送時間	○	○	○	○	○	○
B. 観光の移動時間	○	○	○	－	○	○
C. 救急搬送時間	○	○	○	－	○	○
D. 事故の危険性	○	○	○	－	○	○
E. 大規模地震の影響	○	○	○	○	○	○

凡例
○：言及あり
－：言及なし

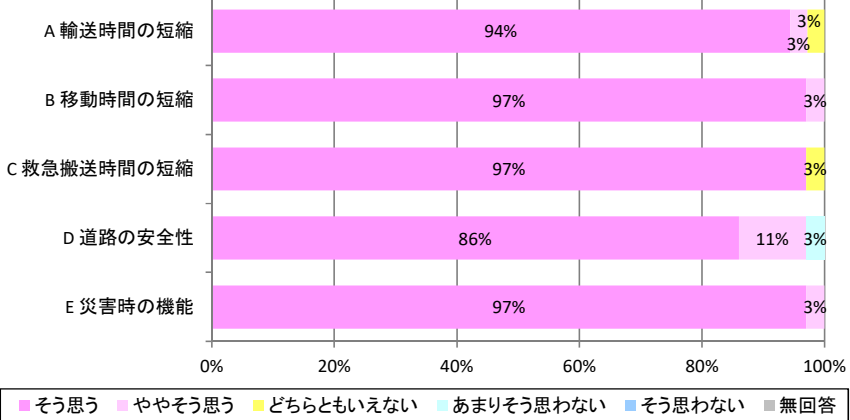
▼選択した項目が重要だと思う理由 総回答数 N=37

項目	主な意見
物流の輸送時間	・時間がかかるのはもちろんのこと、現国道では災害のリスクもある。平成28年には大雨により国道が通行止めになった事でセリに多大な影響があった。セリのキャンセルや上場日の変更を余儀なくされた。【農業協同組合】 ・デルフィニウムは新千歳から主に大阪に空輸している。当日輸送を考えると11:30～13:00迄には空港に到着する必要があるが、集荷時間の確保に苦慮している。JA職員も5:30くらいには出勤する必要があり、負担を感じる。【農業協同組合】
観光の移動時間	・距離が遠いのはもちろん、さくらまつりやうに祭り時期は渋滞も目立つ。【観光協会】 ・ウニ祭りは春のイベントとしては非常に大きく、日高振興局協力の下、静内のさくらまつり等、日高全体で連携して人を呼び込むことを考えているが、札幌から4時間半かかるのはネック。【商工会】
救急搬送時間	・当院では移送用救急車を保持しており、年間80件から100件程度移送しており、やはり搬送に時間がかかっている。【病院】 ・医療面が一番の課題。命を守れない地域に人は集まらない。脳疾患は1時間以内に医療機関へ搬送することが重要と聞いているが、現状は苦小牧に頼らざるを得ない。【商工会議所】 ・管内の医療施設は診療科目が限られているため、症例によって苦小牧、札幌への搬送が必要で件数も多い。1分1秒でも早く搬送することが重要。【自治体】
事故の危険性	・日高は道路横断による死亡事故が非常に多い。去年は静内管内で5人が亡くなっている。別ルートができることで通過交通が分散されれば事故が減るのではないか。【商工会】 ・市街地以外においても昆布干し場付近での車両駐車が多い。やむを得ない部分はあるが危険を感じることもある。【農業協同組合】
大規模地震の影響	・日高は地震が多い地域で、震度3程度であれば頻繁に経験している。山側に道道や農道があるが使用できない場合もある。【商工会】 ・津波はもちろんのこと、津波以外でも胆振東部地震や大雨による土砂崩れ、国道通行止めも発生しており、災害全般に対しての課題。出張医に頼っている部分もあるため、代替路があると非常に助かる。【病院】 ・津波以外にも台風等で国道が止まる場合もある。山側の道道も止まる場合が多い。【トラック協会】

2-13) 第1回地域意見聴取の結果 ヒアリング調査(道路に求められる機能)

○国道235号静内～三石間に必要な道路機能としては、全ての項目に関し、97%以上が必要という傾向。
○特に「スムーズに救急搬送可能な道路」、「観光地へスムーズに移動可能な道路」、「津波災害時に機能する道路」について「そう思う」の割合が高くなった。

▼静内～三石間に必要な道路機能について



総回答数 N=37

質問2-1.
国道235号静内～三石間に必要な道路機能はどのような道路だと思いますか。
次のA～Eについて、「そう思う」～「そう思わない」の5段階で評価して下さい。）

A 農畜水産物の輸送時間を短縮できる道路
B 空港等の交通拠点から観光地や観光地間を早くスムーズに移動可能な道路
C 苫小牧市等の二次医療施設へ早くスムーズに搬送可能な道路
D 事故が少なく安心して走れる道路
E 津波災害時にも機能する道路

▼選択した項目が重要だと思う理由

項目	主な意見
農畜水産物の輸送時間を短縮できる道路	・夏場は日高と札幌の往復や、函館経由で本州までの輸送が多く、5月のトレーニングセールなどは日高から一斉に運搬する。輸送時間短縮は業界にとって悲願。【物流事業者】 ・輸送時間短縮による鮮度向上により取引価格の上昇が期待でき、輸送するドライバーにとってもメリットは大きいのでは。【漁業協同組合】 ・1次産業は日高の基幹産業であり、品質確保のためには必要な機能。軽種馬輸送時のストレス軽減にもつながる。【自治体】
空港等の交通拠点から観光地や観光地間を早くスムーズに移動可能な道路	・5分、10分でも短縮されるのは観光にとって有効であると感じている。移動時間が短縮されることで道東、十勝圏との周遊観光にも期待ができる。【観光協会】 ・日帰りの場合、現状では滞在時間が限られるが、移動時間が短縮できれば多くの人に来場してもらいウニを買ってもらいたい。【商工会】
苫小牧市等の二次医療施設へ早くスムーズに搬送可能な道路	・当院では骨折などの診察・治療にあたる整形外科医は週1回の出張医に頼っている。場合によっては浦河赤十字に搬送する場合もあるため、苫小牧、札幌方面はもちろんのこと、浦河方面への延伸も重要。【病院】 ・延伸のたびに時間短縮効果を感じている。【消防組合】
事故が少なく安心して走れる道路	・日高道整備により、幹線移動の車両が日高道に転換し分散されることで、交通事故減少への効果は高いのでは。【バス協会】 ・通過交通は日高道を利用し、地域の人是一般道と使い分け出来れば、交通が分散され安全性が高まるのでは。【トラック協会】
津波災害時にも機能する道路	・駐屯地自体は浸水域にあるが、指揮系統を高台に移転して出動することも想定しており、実際に訓練も行った。【陸上自衛隊】 ・地震時の広域的な救援、救助を考えると国道以外にもう1本道路があることが重要。道路が浸水高さより上にできれば避難高さの目安にもなる。【消防組合】

2-14) 第1回地域意見聴取の結果 ヒアリング調査(自由回答)

- その他の意見・要望としては、特に休憩施設の整備要望が多く見られた。
- また、追い越し車線の設置に対する要望も寄せられている。

▼その他の意見・要望

質問3. その他、静内～三石間について、ご意見やご要望がありましたら、ご自由にお書き下さい。(自由記述)

主な意見

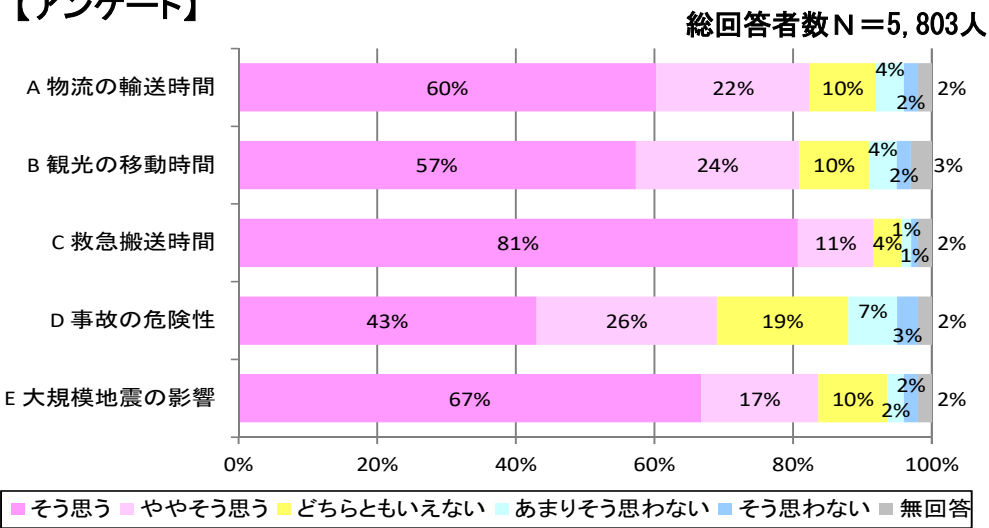
- ・日高道が整備されてきた事で流通は大きく変わった。また札幌方面へ日帰りで行くことも可能になった。今後の延伸にも期待している。高速が出来た地域は、地域の衰退が起きる印象もあるが、地元が知恵を出して克服していかなければならない。
【漁業協同組合】
- ・日高道が延伸されるに従って、途中の町は通過してしまう。厚賀まで開通したことで門別のコンビニにも寄ることがなくなった。インターの位置は市街地に近く立ち寄りやすい位置が良い。
【観光協会】
- ・途中トイレがない。またドライバーの労務時間の問題もありPA等休憩スペースがあると良い。中分のワイヤロープの整備も続けてもらいたい。ワイヤロープによりもらい事故も減る。日高道はとても重要であると認識しており、1日も早い整備を望む。
【トラック協会】
- ・日高道が整備されてきたことで出張医から来やすくなったとの声がある。今後も日高道が延伸されることで、医師の確保にもつながるのでは。医師不足はどこも深刻だが、日高道延伸により日高地域へ安定的な医療を提供できることに期待している。
【病院】
- ・門別競馬場や道の駅みついいし等、観光地のそばにICが出来れば観光の活性化につながるのではないかと。
【農業協同組合】
- ・日高道が延伸されれば苫小牧や札幌に行きやすくなる。林業も人手不足のため人手確保に一役買う可能性もある。
【森林組合】
- ・自衛隊車両は通常は低速走行になることが多いため、片側1車線では後続車両が詰まる場合が多い。追い越し車線の整備をお願いしたい。
【陸上自衛隊】
- ・救急車が追い越しできないため、追い越し車線の整備をお願いしたい。
【自治体】
- ・日高道が整備され移動が楽になったことで苫小牧方面へ行きやすくなり生活水準が上がった。
【観光協会】

2-15) 第1回地域意見聴取(アンケート・ヒアリング)結果のまとめ

○第1回意見聴取の結果、将来を見据えた地域の課題、静内～三石間に必要な道路機能について確認。

▼住民・道路利用者が感じる地域課題

【アンケート】



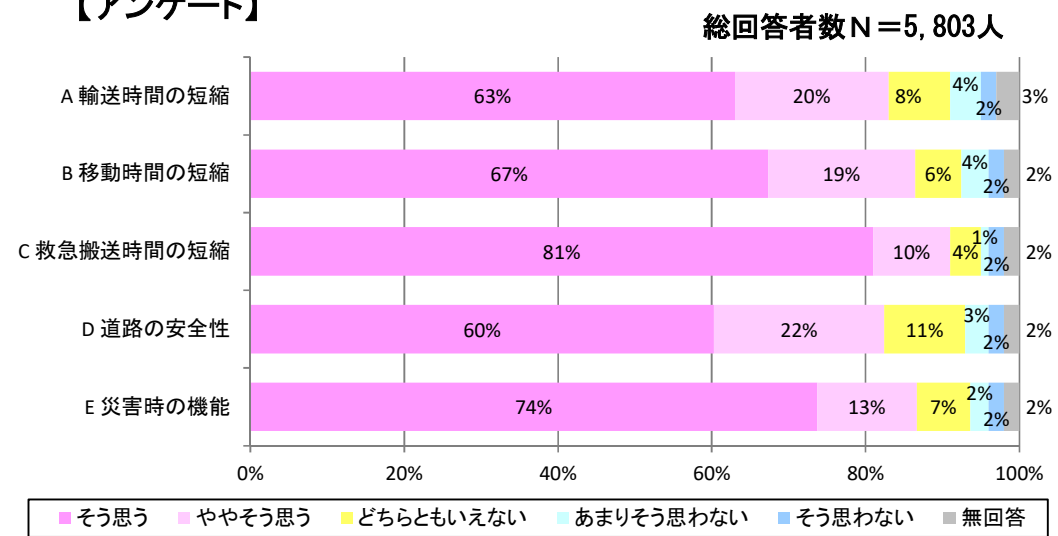
【ヒアリング】

総回答者数 N=37

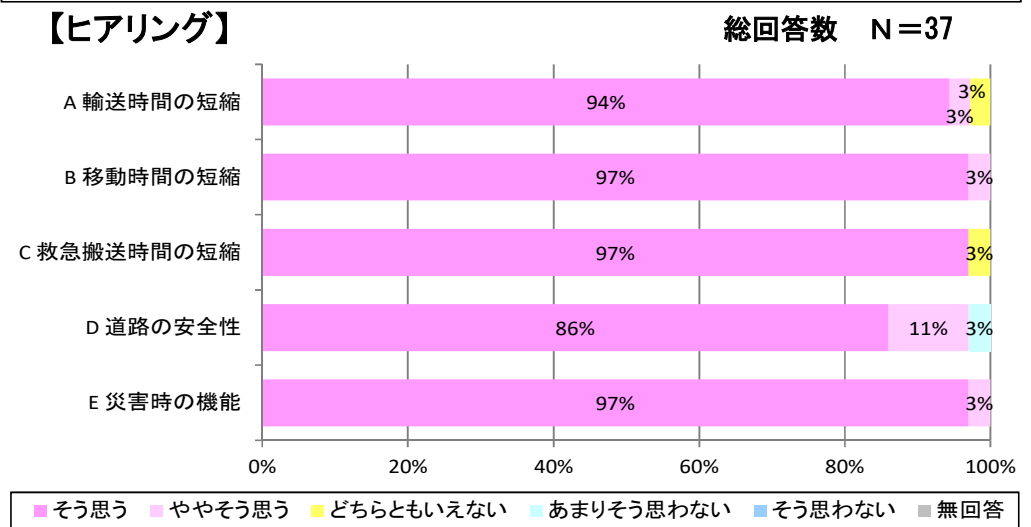
項目	自治体	商工会議所 商工会	農協・漁協 森林組合	運輸	バス・ 観光	病院・自衛隊 消防
A. 物流の輸送時間	○	○	○	○	○	○
B. 観光の移動時間	○	○	○	—	○	○
C. 救急搬送時間	○	○	○	—	○	○
D. 事故の危険性	○	○	○	—	○	○
E. 大規模地震の影響	○	○	○	○	○	○

▼静内～三石間に必要な道路機能について

【アンケート】



【ヒアリング】



アンケート、ヒアリング結果から道路整備の必要性を確認

3. 地域意見を踏まえた政策目標

3-1) 政策目標の設定

- 第1回地域意見聴取の結果を踏まえ、本地域の政策目標を設定。
- 別線整備や既存の道路ストックの活用も含め対策案を設定し整備方針を検討。

■政策目標の設定

地域や道路の状況・課題

圏域と地域の将来像

地域意見聴取の結果

- ・ 軽種馬産業や農林水産業を支える輸送経路の速達性・安定性の向上
- ・ 地域医療サービスの向上に向けた速達性・安定性の向上
- ・ 大規模地震発生時の避難・復旧活動支援
- ・ 当該地域と道央圏・十勝圏の広域観光連携に向けた速達性の向上

■対策案の検討

【物流関連】

- ・ 空港・港湾等の物流拠点への輸送時間短縮
- ・ 信号交差点や線形隘路区間の回避による走行性向上

【医療関連】

- ・ 苫小牧市の高次医療施設への移動時間短縮
- ・ 救急搬送時の安定性向上による患者の負担軽減

【災害関連】

- ・ 大規模地震による津波発生時の避難・復旧支援経路を確保
- ・ 地域の基幹ネットワークの多重性確保

【観光関連】

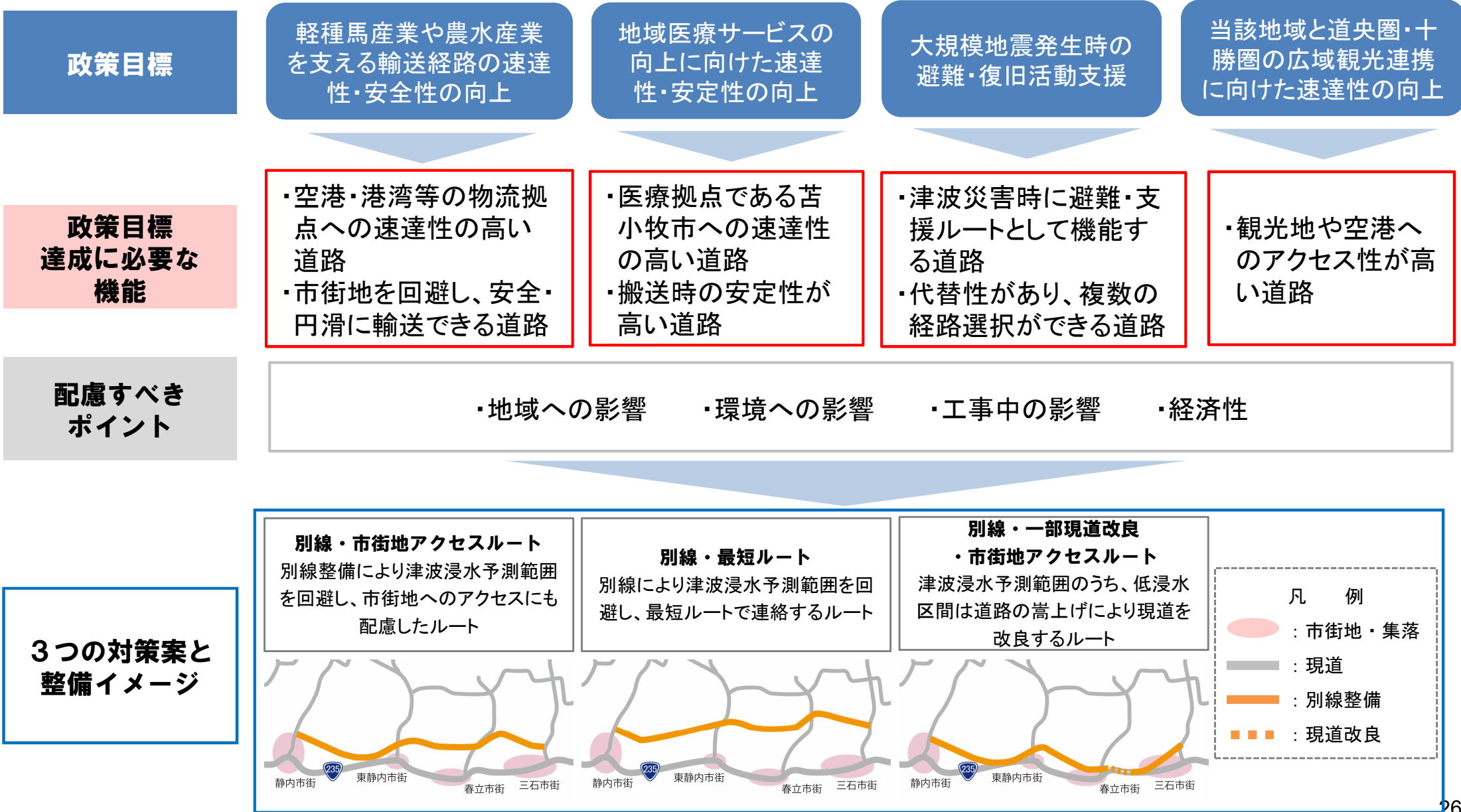
- ・ 観光地や空港等の交通拠点への移動時間短縮

別線整備や既存の道路ストック活用も含め対策案を設定し整備方針を検討

4. 路線の整備方針（案）

4-1) 路線の対策案の考え方

○第1回地域意見聴取で地域の課題、静内～三石間に必要な道路機能について確認したことから、政策目標の達成に必要な機能と配慮すべき事項等を踏まえ、以下のような3つの対策案を設定。



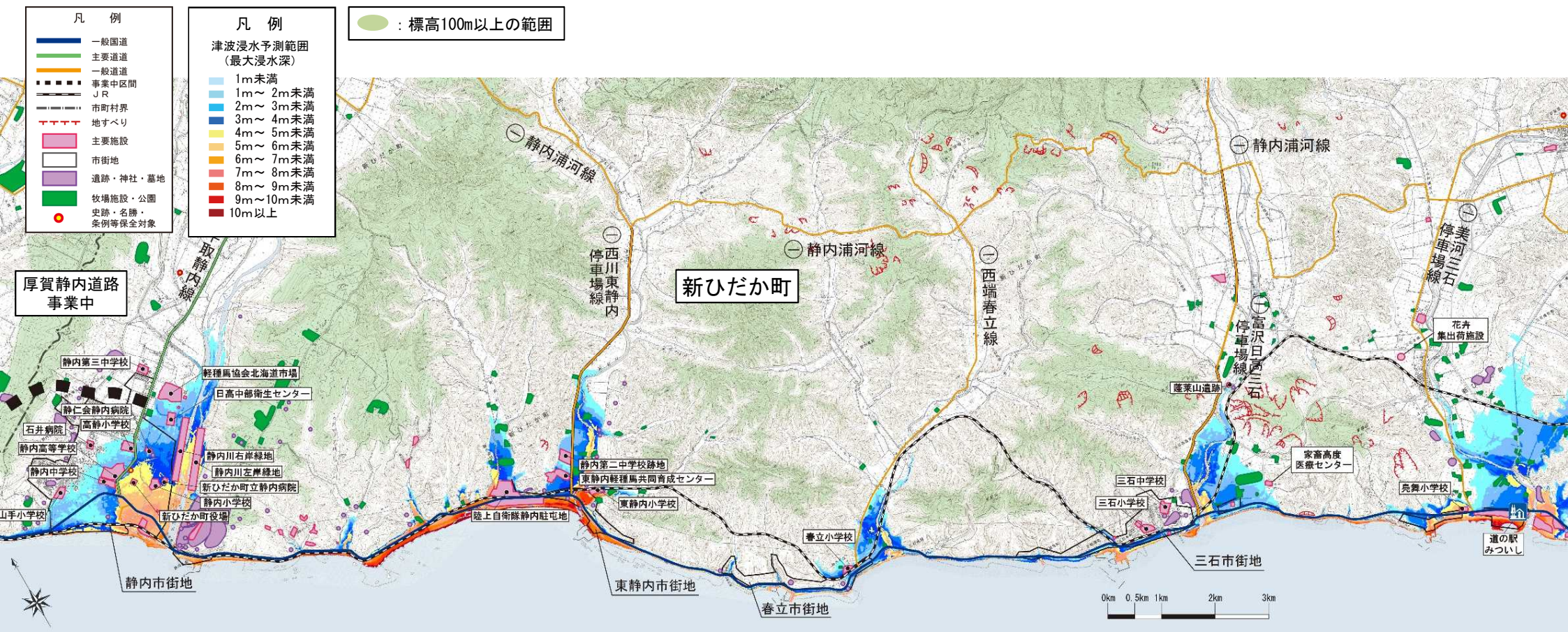
4-2) 評価項目

地域の課題	政策目標	求められる機能	評価項目
産業支援 (物流)	軽種馬産業や農水産業を支える輸送経路の速達性・安定性の向上	・空港・港湾等の物流拠点への速達性の高い道路	・新千歳空港や苫小牧港への移動時間短縮
		・市街地を回避し、安全・円滑に輸送できる道路	・信号交差点や事故危険区間の回避
暮らし (医療)	地域医療サービスの向上に向けた速達性・安定性の向上	・医療拠点である苫小牧市への速達性の高い道路	・二次救急医療機関への移動時間短縮
		・搬送時の安定性が高い道路	・救急搬送患者の負担となる信号交差点や急カーブの回避
災害 (防災)	大規模地震発生時の避難・復旧活動支援	・津波災害時に避難・支援ルートとして機能する道路	・津波浸水予測範囲を回避することで脆弱性を解消
		・代替性があり、複数の経路選択ができる道路	・国道235号の代替路確保
観光支援 (人流)	当該地域と道央圏・十勝圏の広域観光連携に向けた速達性の向上	・観光地や空港への速達性の高い道路	・札幌市や新千歳空港からの移動時間短縮

配慮すべきポイント	評価項目
地域への影響	家屋や施設等への影響や沿道地域の利便性に配慮
環境への影響	軽種馬牧場や山地部などの自然環境への影響に配慮
工事中の影響	工事中の現道交通への影響
経済性	建設に要する費用

4-3) 対策案のコントロールポイントの考え方

○各対策案検討のコントロールポイントとしては、市街地の公共施設や地域産業である軽種馬牧場、津波浸水エリアの影響を極力回避しつつ、市街地へのアクセス性に配慮。



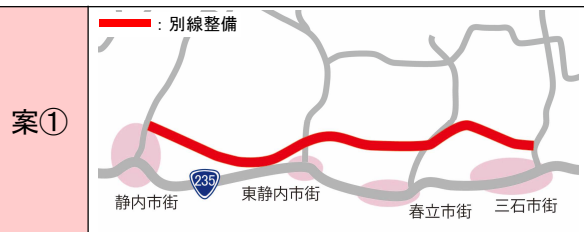
回避すべき施設等 (社会的状況による要因)	・市街地（都市計画区域）や集落、軽種馬牧場 ・公共施設（役場、病院、学校、福祉施設、自衛隊施設等） ・史跡・遺跡
配慮すべき事項 (自然環境)	・自然環境 ・津波浸水予測範囲、地すべり箇所

4-4) 対策案の概要(案①:別線・市街地アクセスルート)

- 津波浸水予測範囲を縦断的に回避しつつ、市街地へのアクセス性にも配慮したルート。
- 全線新たな自動車専用道路で整備し、安全性・速達性・代替性を確保するルート。



■整備イメージ



■整備概要

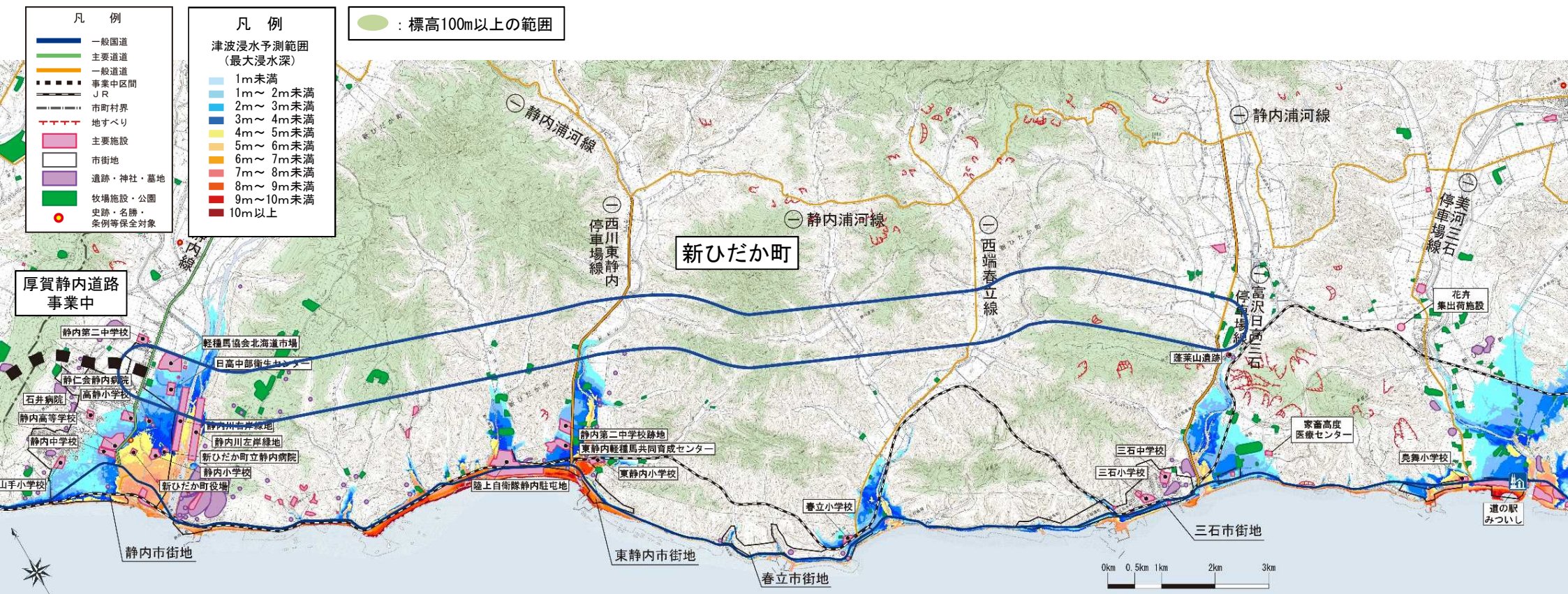
延長	約 21 km
構造	自動車専用道路 (設計速度 80 km/h を想定)
コスト	約 720 ～ 880 億円

■ポイント

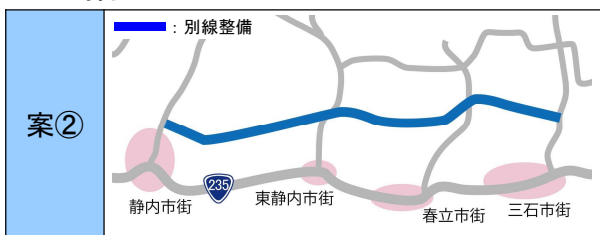
内容	・ルート帯が現国道や市街地から近傍で、アクセス性や津波災害時の代替性に優れる ・地形に沿った線形とすることで、構造物が少なく比較案での事業費は安価 ・比較案の中で延長が長くなるが自動車専用道路なのでサービス速度は確保しやすい
----	--

4-5) 対策案の概要(案②:別線・最短ルート)

- 津波浸水予測範囲を平面的に回避しつつ、最短ルートで連絡するルート。
- 全線新たな自動車専用道路で整備し、安全性・速達性・代替性を確保するルート。



■整備イメージ



■整備概要

延長	約20km
構造	自動車専用道路（設計速度80km/hを想定）
コスト	約940～1,140億円

■ポイント

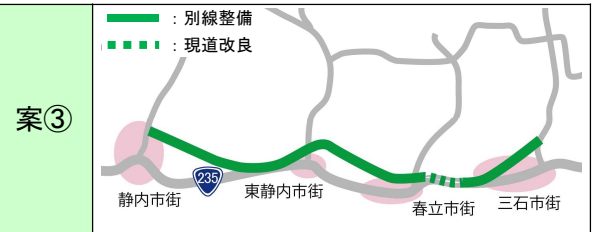
内容	・市街地（東静内、三石）から離れており、アクセスに時間を要し、津波災害時においても迅速な救援、救助活動に影響 ・山地部を構造物を使用した最短での線形とするため、構造物延長が長く、比較案での事業費は高価 ・比較案の中で延長が短く、自動車専用道路なのでサービス速度は確保しやすい
----	---

4-6) 対策案の概要(案③:別線・一部現道改良・市街地アクセスルート)

- 津波浸水予測範囲を縦断的に回避しつつ、現道を部分的に活用し、局所的な改良を行うルート。
- 津波浸水予測範囲のうち、低浸水区間は道路の嵩上げにより現道を改良し、その他区間は新たな自動車専用道路を整備することで、アクセス性、安全性・速達性・代替性を確保するルート。



■整備イメージ



■整備概要

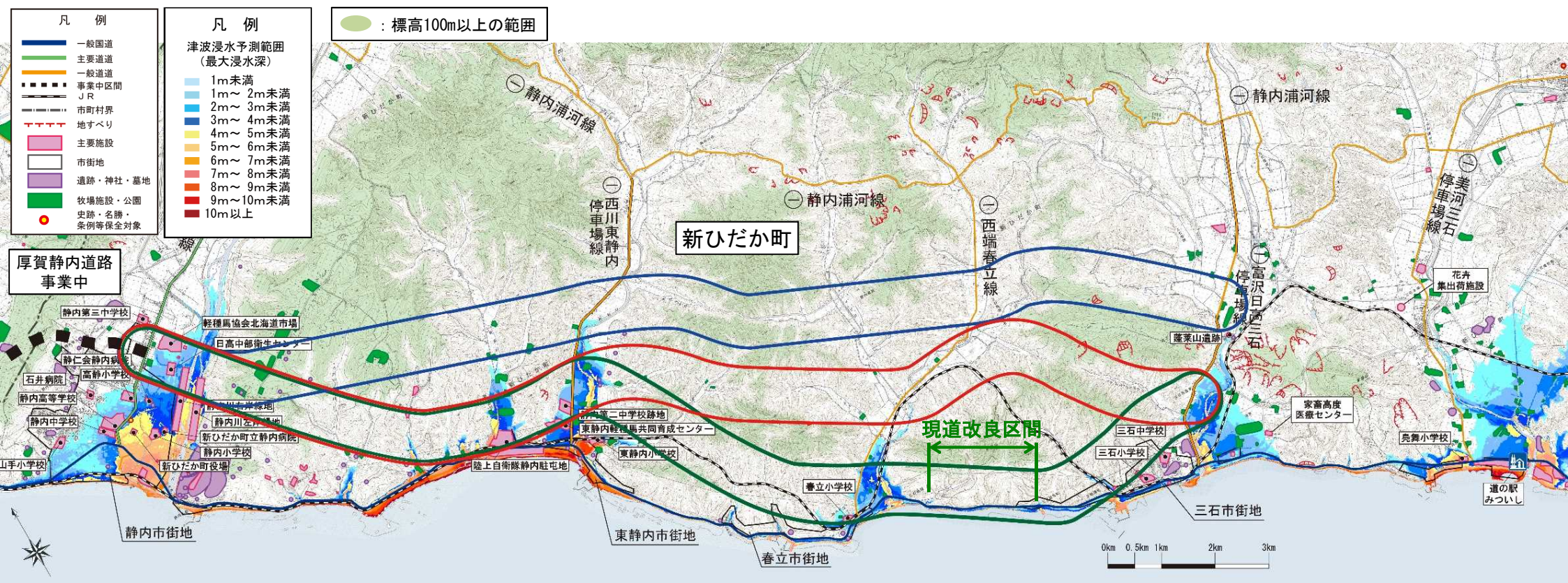
延長	約21km
構造	自動車専用道路(設計速度80km/hを想定) 現道改良区間(設計速度60km/hを想定)
コスト	約860～1,060億円

■ポイント

内容	・ルート帯が現国道や市街地から近傍で、アクセス性に優れているが、一部現道を改良するための部分的に代替路は確保されない ・低浸水域区間は一部現道改良するが、津波対策費が高額のため、比較案での事業費は中位 ・一部現道改良となるため、速達性は比較案の中で劣る
----	--

4-7) 対策案のまとめ

○コントロールポイントを踏まえ、政策目標達成に必要な機能から3つの対策案を設定。



- 案① 別線・市街地アクセスルート**
(津波浸水予測範囲を縦断的に回避しつつ、市街地へのアクセスにも配慮したルート)

→

 - ・ルート帯が現国道や市街地から近傍で、アクセス性や津波災害時の代替性に優れる
 - ・地形に沿った線形とすることで、構造物が少なく比較案での事業費は安価
 - ・比較案の中で延長が長くなるが自動車専用道路なのでサービス速度は確保しやすい
- 案② 別線・最短ルート**
(津波浸水予測範囲を平面的に回避しつつ、最短ルートで連絡するルート)

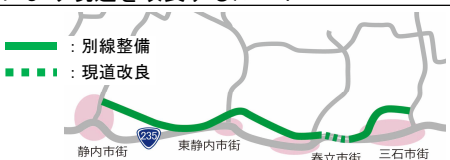
→

 - ・市街地（東静内、三石）から離れており、アクセスに時間を要し、津波災害時においても迅速な救援、救助活動に影響
 - ・山地部を構造物を使用した最短での線形とするため、構造物延長が長く、比較案での事業費は高価
 - ・比較案の中で延長が短く、自動車専用道路なのでサービス速度は確保しやすい
- 案③ 別線・一部現道改良・市街地アクセスルート**
(津波浸水予測範囲を縦断的に回避しつつ、現道を部分的に活用し、局所的な改良を行うルート)

→

 - ・ルート帯が現国道や市街地から最も近傍で、アクセス性に優れているが、一部現道を改良するため部分的に代替路は確保されない
 - ・低浸水域区間は一部現道改良するが、津波対策費が高額のため、比較案での事業費は中位
 - ・一部現道改良となるため、速達性は比較案の中で劣る

4-8) 対策案の比較

対策案の考え方			【案①】 別線・市街地アクセスルート	【案②】 別線・最短ルート	【案③】 別線・一部現道改良・市街地アクセスルート
整備イメージ					
区間延長			約21km（自動車専用道路）	約20km（自動車専用道路）	約21km（現道改良+自動車専用道路）
政策目標	軽種馬産業や農水産業を支える輸送経路の速達性・安定性の向上	物流拠点への速達性	・日高地域から主要物流拠点である函館港、苫小牧港、新千歳空港への時間短縮効果大きい（17分短縮※）	・日高地域から主要物流拠点である函館港、苫小牧港、新千歳空港への時間短縮効果大きい（18分短縮※）	・日高地域から主要物流拠点である函館港、苫小牧港、新千歳空港への時間短縮効果が小さい（15分短縮※）
		輸送時の安定性	・速度や安定性低下を招く市街地等の回避 ・信号交差点の回避 17箇所→0箇所	・速度や安定性低下を招く市街地等の回避 ・信号交差点の回避 17箇所→0箇所	・速度や安定性低下を招く市街地等の回避 ・信号交差点の回避 17箇所→0箇所
		輸送時の安全性	・生活交通と通過交通を分離 ・市街地等の事故多発箇所を回避	・生活交通と通過交通を分離 ・市街地等の事故多発箇所を回避	・生活交通と通過交通を極力分離 ・市街地等の事故多発箇所を回避
	地域医療サービスの向上に向けた速達性・安定性の向上	高次医療施設への速達性	・苫小牧市への60分圏カバー人口の増加が大きい（新ひだか町の60分圏カバー人口率 静内～三石 整備前：52%⇒整備後：64%）	・苫小牧市への60分圏カバー人口の増加が大きい（新ひだか町の60分圏カバー人口率 静内～三石 整備前：52%⇒整備時：64%）	・苫小牧市への60分圏カバー人口の増加が小さい（新ひだか町の60分圏カバー人口率 静内～三石 整備前：52%⇒整備時：58%）
		救急搬送の安定性	・速度や安定性低下を招く信号交差点、線形隘路区間を回避し、搬送患者の負担を軽減	・速度や安定性低下を招く信号交差点、線形隘路区間を回避し、搬送患者の負担を軽減	・速度や安定性低下を招く信号交差点、線形隘路区間を回避し、搬送患者の負担を軽減
	大規模地震発生時の避難・復旧活動支援	津波浸水予測範囲の回避	・津波浸水予測範囲を極力回避しつつ、一部区間において津波高さを考慮した道路構造とすることにより津波浸水予測範囲を回避	・津波浸水予測範囲をルートにより回避	・津波浸水予測範囲を別線区間においては極力回避し、現道改良区間においては、現道嵩上げ等により津波浸水予測範囲を回避
		代替路の確保	・全線別線にて整備することで代替路の確保が可能	・全線別線にて整備することで代替路の確保が可能	・一部現道を活用するため部分的に代替路が確保されない
		啓開・復旧活動	・市街地から近傍にルートが位置するため、啓開必要延長が短く、迅速な復旧・救援活動が可能	・市街地から遠隔にルートが位置するため、啓開必要延長が長く、迅速な復旧・救援活動に影響	・市街地から最も近傍にルートが位置し、現道改良区間もあるため、啓開必要延長が最も短く、迅速な復旧・救援活動が可能
配慮すべき事項	当該地域と道央圏・十勝圏の広域観光連携に向けた速達性の向上		交通拠点からの速達性	・アクセス改善効果が大きい（17分短縮※）	・アクセス改善効果が小さい（15分短縮※）
	地域への影響	沿道家屋への影響	・郊外部を通過するため、住宅地への影響が小さい	・郊外部を通過するため、住宅地への影響が小さい	・市街地付近を通過する際は、沿道家屋への影響を極力回避するが、他案よりは影響がある
	環境への影響	自然環境の保全性	・山地部を通過するが、地形に沿った線形とすることで地形改変面積を抑制することが可能	・山地部を通過するが、トンネル延長が長い場合、切土による地形改変面積を抑制することが可能	・主に山地部を通過するが、地形に沿った線形としつつ、一部現道を活用することで地形改変面積を抑制することが可能
	工事中の影響	工事中の現道交通への影響	・山地部の別線整備のため工事中の現道交通への影響は小さい	・山地部の別線整備のため工事中の現道交通への影響は小さい	・現道改良区間は、影響が大きく通行規制が必要
	経済性	経済性・概算事業費	・地形に沿った線形とすることで、構造物が少なく経済性に優れる	・津波浸水予測範囲を迂回し最短ルートで連絡するが、構造物延長が長く経済性に劣る	・地形に沿った線形とし、一部現道を活用するが、現道の津波対策費等が高額となるため、経済性は中位
			約720～880億円	約940～1,140億円	約860～1,060億円

※上記の時間短縮等の数値については、概略延長に対して設計速度を用いて試算した値であり、今後の詳細なルート・構造検討や接続位置等により変更となる場合があります。

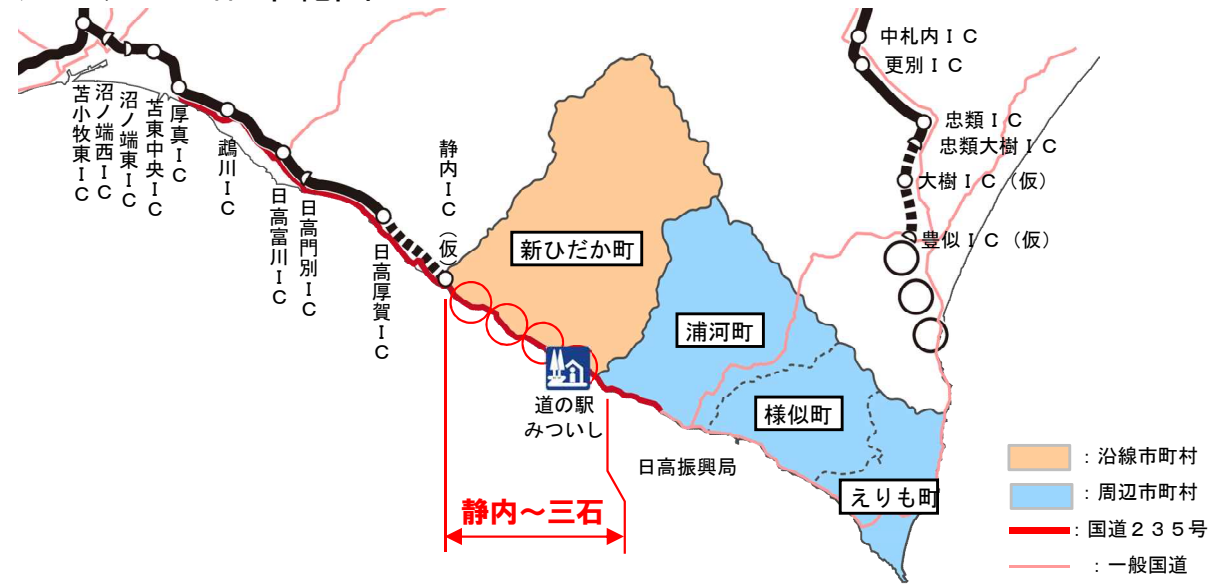
5. 第2回地域意見聴取方法

5-1) 第2回地域意見聴取方法

第2回地域意見聴取の基本方針

○「比較ルート帯（案）」「配慮すべき事項」に対し意見を伺う。

アンケート配布範囲



地域意見聴取の方法と対象者

対象者・実施方法			
ヒアリング	【沿線自治体及び各団体】		
	沿線自治体等	日高振興局、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町	インタビュー形式での ヒアリング
	各団体	商工会等(4箇所) 観光協会(4箇所) 農業協同組合(3箇所) 漁業協同組合(3箇所) 農・漁業協同組合女性部(4箇所) 森林組合(3箇所) 日高軽種馬農業協同組合 日高獣医師会 消防本部・消防組合(2箇所) 病院(3箇所) 室蘭地区トラック協会、室蘭地区バス協会 陸上自衛隊静内駐屯地 北海道競走馬輸送事業協同組合	
アンケート	【地域住民及び道路利用者】		
	地域住民	新ひだか町(全世帯:約11,000戸)、浦河町(全世帯:約6,200戸)、 様似町(全世帯:約2,000戸)、えりも町(全世帯:約2,000戸)	郵送配布 (約21,200戸)
	道路利用者	町役場および道の駅(みついし)	常設の留置きアンケート調査
広域的な利用者		Webアンケート調査	

5-2) 第2回地域意見聴取方法

■ヒアリングの調査項目と活用方針

ヒアリングの調査項目	ヒアリング結果の活用	備考
自治体や各団体への意見聴取	・地域や道路の課題に関し、自治体や各団体への意見聴取を行い、政策目標の設定に反映する。 ・自治体や各団体、観光客との認識の整合性の確認をする。	共通

■アンケートの調査項目と活用方針

アンケートの調査項目	アンケート結果の活用	備考
地域の課題	将来を見据えた改善すべき地域の課題について、回答者の考えを把握する。	第1回
道路の課題	日高自動車道の調査中区間(静内～三石間)及び並行する国道235号の現状について、回答者の考える課題を把握する。	
その他自由意見	その他、道路に関する課題や意見を幅広く聴取する。	
比較ルート帯(複数案)に対する意見	ルート帯、インターチェンジ選定にあたり、地域住民等が重視する視点、配慮すべき事項を把握する。	第2回
その他自由意見	その他、各区分に関する意見を幅広く聴取し、計画策定に反映する。	
回答者の属性、利用状況	回答結果の差異に対して各分野で整理し、分析する。	共通

5-3) 第2回アンケート調査(案)

■第2回アンケートにおける調査方法および質問内容

①調査概要

➡ ○本調査の趣旨・調査対象箇所について説明

日高自動車道（静内～三石間）における道路計画に関する意見聴取（第2回）

日高自動車道は、苫小牧市を起点として厚真町、むかわ町、日高町、新冠町、新ひだか町を経由し、浦河町へ至る延長約120kmの一般国道の自動車専用道路です。

本アンケートは、日高自動車道のうち、新ひだか町静内～新ひだか町三石間の計画検討にあたり、地域の皆様の生活にも役立つ道路とするために実施するものです。

本年2月に実施しました第1回意見聴取では、地域の皆様が日頃感じている地域の課題や、必要な道路機能についてご意見を頂きました。ご協力ありがとうございました。

今回の第2回意見聴取では、ルート検討にあたり重視すべき点や配慮すべき点についてお聞きしますので、本アンケートにご協力いただきますよう、宜しくお願いいたします。



■このアンケートでは、静内～三石間の計画についてお伺いします。

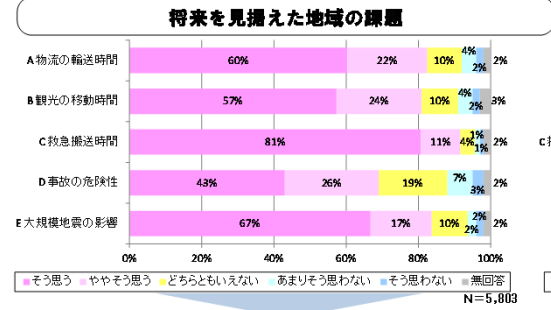
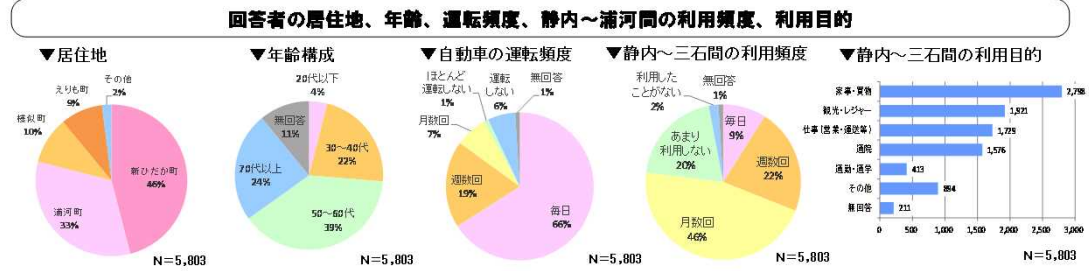


②第1回アンケート調査の結果

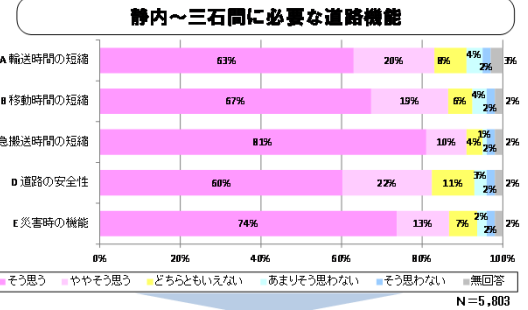
➡ ○「将来を見据えた地域の課題」、「静内～三石間に必要な道路」について集計結果を提示

第1回意見聴取の結果

アンケートには、地域の住民や道路を利用される方などから、5,803件の回答をいただきました。



将来を見据えた地域の課題は、特に救急搬送時間や大規模地震時の影響が課題であるとの回答をいただきました。



静内～三石間においては、特に医療拠点への速達性や災害時に機能する道路が必要であるとの回答をいただきました。

5-4) 第2回アンケート調査(案)

■第2回アンケートにおける調査方法および質問内容

③第1回意見聴取(ヒアリング)の結果

➡ ○設定した政策目標等に対する意見を提示

第1回意見聴取の結果

ヒアリング調査では、沿線自治体や各団体から37件の回答をいただきました。

将来を見据えた地域の課題

項目	自治体	商工会議所 商工会	農協・漁協 森林組合	運輸	バス・ 観光	警察・自衛隊 消防
A. 物流の輸送時間	○	○	○	○	○	○
B. 観光の移動時間	○	○	○	—	○	○
C. 救急搬送時間	○	○	○	—	○	○
D. 事故の危険性	○	○	○	—	○	○
E. 大規模地震の影響	○	○	○	○	○	○

静内～三石間に必要な道路機能

項目	割合
A. 輸送時間の短縮	94%
B. 移動時間の短縮	97%
C. 救急搬送時間の短縮	97%
D. 道路の安全性	86%
E. 災害時の機能	97%

将来を見据えた地域の課題は、特に物流の輸送時間、大規模地震時の影響が課題であるとの回答をいただきました。

静内～三石間においては、特に物流及び観光地や医療拠点への速達性、災害時に機能する道路が必要であるとの回答をいただきました。

第1回アンケート調査・ヒアリング調査のまとめ

○多くの道路関係者や各団体の皆様
が地域の課題に対して道路整備の
必要性を感じています。

○特に、物流拠点・観光拠点・医療
拠点へ迅速に移動できる道路、津
波災害時に避難や緊急輸送路とし
て利用できる道路に対して多く回
答を頂きました。

頂いた意見を踏
まえ政策目標を
設定しました

静内～三石間に必要とされる政策目標

- 軽種馬産業や農水産業を支える輸送経路の安定性や安全性の向上
- 地域医療サービスの向上に向けた速達性・安定性の向上
- 大規模地震発生時の避難・復旧活動を支援
- 当該地域と道央圏・十勝圏の広域観光連携に向けた速達性の向上

④課題解決のための対策案

➡ 対象地域における課題解決のための対策案の提示

課題解決のための対策案

○第1回意見聴取で地域の課題、静内～三石間に必要な道路機能について確認したことから、政策目標の達成に必要な機能と配慮すべき事項等を踏まえ、以下のような3つの対策案を設定。

政策目標

- 軽種馬産業や農水産業を支える輸送経路の速達性・安全性の向上
- 地域医療サービスの向上に向けた速達性・安定性の向上
- 大規模地震発生時の避難・復旧活動支援
- 当該地域と道央圏・十勝圏の広域観光連携に向けた速達性の向上

政策目標達成に必要な機能

- 空港・港湾等の物流拠点への速達性の高い道路
- 医療拠点である苫小牧市への速達性の高い道路
- 津波災害時に避難・支援ルートとして機能する道路
- 代替性があり、複数の経路選択ができる道路
- 観光地や空港へのアクセス性が高い道路

配慮すべきポイント

- 地域への影響
- 環境への影響
- 工事中の影響
- 経済性

3つの対策案と整備イメージ

別線・市街地アクセスルート

別線整備により津波・洪水予測範囲を回避し、市街地へのアクセスにも配慮したルート

別線・最短ルート

別線により津波・洪水予測範囲を回避し、最短ルートで連絡するルート

別線・一部現道改良・市街地アクセスルート

津波・洪水予測範囲のうち、低浸水区間は道路の嵩上げにより現道を改良するルート

凡例

- 市街地・集落
- 現道
- 別線整備
- 現道改良

5-5) 第2回アンケート調査(案)

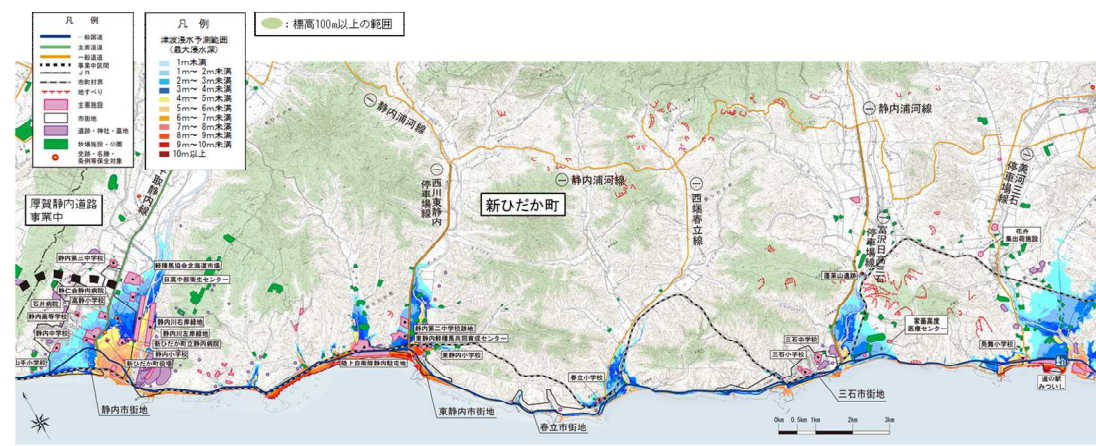
■第2回アンケートにおける調査方法および質問内容

⑤対策案のコントロールポイント

➡ ○対策案の検討にあたってのコントロールポイントを提示

対策案のコントロールポイント

○各対策案検討のコントロールポイントとしては、市街地の公共施設や地域産業である軽種馬牧場、津波浸水エリアの影響を極力回避しつつ、市街地へのアクセス性に配慮。



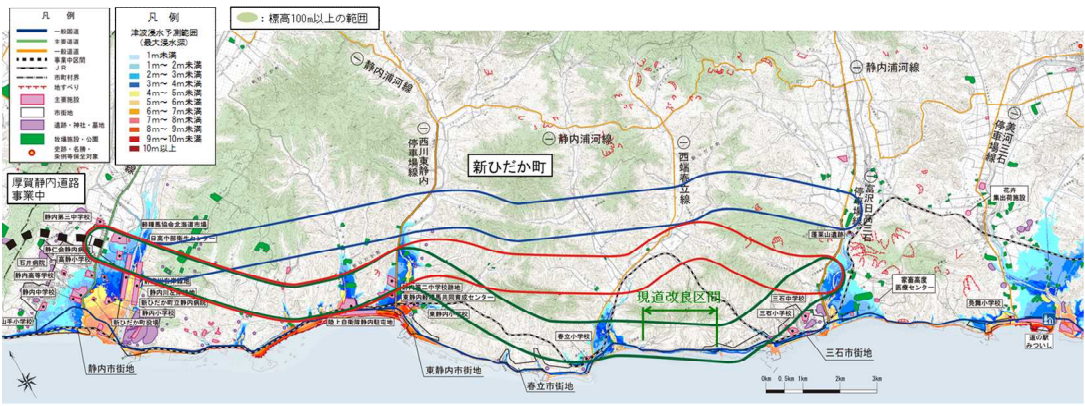
回避すべき施設等 (社会的状況による要因)	・市街地（都市計画区域）や集落、軽種馬牧場 ・公共施設（役場、病院、学校、福祉施設、自衛隊施設等） ・史跡・遺跡
配慮すべき事項 (自然環境)	・自然環境（自主アクセス結果による希少種） ・津波浸水予測範囲、地すべり箇所

⑥対策案の比較

➡ ○各対策案を提示

対策案の比較

○コントロールポイントを踏まえ、政策目標達成に必要な機能から3つの対策案を設定。



案① 別線・市街地アクセスルート (津波浸水予測範囲を縦断的に回避しつつ、市街地へのアクセスにも配慮したルート)	・ルート帯が現国道や市街地から近傍で、アクセス性及び津波災害時の代替性に優れる ・地形に沿った線形とすることで、構造物が少なく比較案での事業費は安価 ・比較案の中で延長が長くなるが自動車専用道路なのでサービス速度は確保しやすい
案② 別線・最短ルート (津波浸水予測範囲を平面的に回避しつつ、最短ルートで連絡するルート)	・市街地（東静内、三石）から離れており、アクセスに時間を要し、津波災害時においても迅速な救援、救助活動に影響 ・山地部を構造物を使用した最短での線形とするため、構造物延長が長く、比較案での事業費は高価 ・比較案の中で延長が短く、自動車専用道路なのでサービス速度は確保しやすい
案③ 別線・一部現道改良・市街地アクセスルート (津波浸水予測範囲を縦断的に回避しつつ、現道を部分的に活用し、局所的な改良を行うルート)	・ルート帯が現国道や市街地から最も近傍で、アクセス性に優れているが、一部現道を改良するため部分的に代替路は確保されない ・低浸水域区間は一部現道改良するが、津波対策費が高額のため、比較案での事業費は中位 ・一部現道改良となるため、速達性は比較案の中で劣る

5-6) 第2回アンケート調査(案)

■第2回アンケートにおける調査方法および質問内容

⑦対策案の比較表

➡ ○対策案の内容・効果・影響の比較結果の提示

対策案の比較表				
対策案の考え方		【案①】 別線・市街地アクセスルート	【案②】 別線・最短ルート	【案③】 別線・一部現道改良・市街地アクセスルート
整備イメージ				
区間延長		約2.1km (自動車専用道路)	約2.0km (自動車専用道路)	約2.1km (現道改良+自動車専用道路)
政策目標	軽種馬産業や農水産業を支える輸送経路の速達性・安定性の向上	物流拠点への速達性 ・日高地域から主要物流拠点である面鏡港、苫小牧港、新千歳空港への時間短縮効果が大きい (17分短縮※) 輸送時の安定性 ・速度や安定性低下を招く市街地等の回避 ・信号交差点の回避 17箇所→0箇所 輸送時の安全性 ・生活交通と通過交通を分離 ・市街地等の事故多発箇所を回避	物流拠点への速達性 ・日高地域から主要物流拠点である面鏡港、苫小牧港、新千歳空港への時間短縮効果が大きい (18分短縮※) 輸送時の安定性 ・速度や安定性低下を招く市街地等の回避 ・信号交差点の回避 17箇所→0箇所 輸送時の安全性 ・生活交通と通過交通を分離 ・市街地等の事故多発箇所を回避	物流拠点への速達性 ・日高地域から主要物流拠点である面鏡港、苫小牧港、新千歳空港への時間短縮効果が小さい (15分短縮※) 輸送時の安定性 ・速度や安定性低下を招く市街地等の回避 ・信号交差点の回避 17箇所→0箇所 輸送時の安全性 ・生活交通と通過交通を分離 ・市街地等の事故多発箇所を回避
	地域医療サービスの向上に向けた速達性・安定性の向上	高次医療施設への速達性 ・苫小牧市への60分圏カバー人口の増加が大きい (新ひだか町の60分圏カバー人口率 静内～三石 整備前: 52%→整備後: 64%) 救急搬送の安定性 ・速度や安定性低下を招く信号交差点、線形隘路区間を回避し、搬送患者の負担を軽減	高次医療施設への速達性 ・苫小牧市への60分圏カバー人口の増加が大きい (新ひだか町の60分圏カバー人口率 静内～三石 整備前: 52%→整備後: 64%) 救急搬送の安定性 ・速度や安定性低下を招く信号交差点、線形隘路区間を回避し、搬送患者の負担を軽減	高次医療施設への速達性 ・苫小牧市への60分圏カバー人口の増加が小さい (新ひだか町の60分圏カバー人口率 静内～三石 整備前: 52%→整備後: 58%) 救急搬送の安定性 ・速度や安定性低下を招く信号交差点、線形隘路区間を回避し、搬送患者の負担を軽減
	大規模地震発生時の避難・復旧活動支援	津波浸水予測範囲の回避 ・津波浸水予測範囲を極力回避しつつ、一部区間において津波高さを考慮した道路構造とすることにより津波浸水予測範囲を回避 代替路の確保 ・全線別線にて整備することで代替路の確保が可能 啓開・復旧活動 ・市街地から近傍にルートが位置するため、啓開必要延長が短く、迅速な復旧・救援活動が可能 避難活動の支援 (道路空間の緊急避難所としての開放) ・市街地から近傍にルートが位置するため、避難活動の支援 (道路空間の緊急避難所としての開放) が期待できる	津波浸水予測範囲の回避 ・津波浸水予測範囲をルートにより回避 代替路の確保 ・全線別線にて整備することで代替路の確保が可能 啓開・復旧活動 ・市街地から近傍にルートが位置するため、啓開必要延長が長く、迅速な復旧・救援活動に影響 避難活動の支援 (道路空間の緊急避難所としての開放) ・市街地から近傍にルートが位置するため、避難活動の支援 (道路空間の緊急避難所としての開放) はあまり期待できない	津波浸水予測範囲の回避 ・津波浸水予測範囲を別線区間においては極力回避し、現道改良区間においては、現道嵩上げ等により津波浸水予測範囲を回避 代替路の確保 ・一部現道を活用するため部分的に代替路が確保されない 啓開・復旧活動 ・市街地から最も近傍にルート位置するため、啓開必要延長が短く、迅速な復旧・救援活動が可能 避難活動の支援 (道路空間の緊急避難所としての開放) ・市街地から最も近傍にルートが位置するため、迅速な避難活動の支援 (道路空間の緊急避難所としての開放) が可能
	当該地域と道央圏・十勝圏の広域観光連携に向けた速達性の向上	交通拠点からの速達性 ・アクセス改善効果が大きい (17分短縮※)	交通拠点からの速達性 ・アクセス改善効果が大きい (18分短縮※)	交通拠点からの速達性 ・アクセス改善効果が小さい (15分短縮※)
配慮すべき事項	地域への影響	沿道家屋への影響 ・郊外部を通過するため、住宅地への影響が小さい	沿道家屋への影響 ・郊外部を通過するため、住宅地への影響が小さい	沿道家屋への影響 ・市街地付近を通過する際は、沿道家屋への影響を極力回避するが、他家よりは影響がある
	環境への影響	自然環境の保全性 ・山地部を通過するが、地形に沿った線形とすることで地形改変面積を抑制することが可能	自然環境の保全性 ・山地部を通過するが、トンネル延長が長いいため、切土による地形改変面積を抑制することが可能	自然環境の保全性 ・主に山地部を通過するが、地形に沿った線形としつつ、一部現道を活用することで地形改変面積を抑制することが可能
	工事中の影響	工事中の現道交通への影響 ・山地部の別線整備のため工事中の現道交通への影響は小さい 経済性・概算事業費 ・地形に沿った線形とすることで、構造物が少なく経済性に優れる 約720～880億円	工事中の現道交通への影響 ・山地部の別線整備のため工事中の現道交通への影響は小さい 経済性・概算事業費 ・津波浸水予測範囲を迂回し最短ルートで連絡するが、構造物延長が長く経済性に劣る 約940～1,140億円	工事中の現道交通への影響 ・現道改良区間は、影響が大きく通行規制が必要 経済性・概算事業費 ・地形に沿った線形とし、一部現道を活用するが、現道の津波対策費等が高額となるため、経済性は中位 約860～1,060億円

※上記の時間短縮等の数値については、概略延長に対して設計速度を用いて試算した値であり、今後の詳細なルート・構造検討や橋梁位置等により変更となる場合があります。

5-7) 第2回アンケート調査(案)

■ 質問内容・回答欄

質問1 対策案（ルート帯案）の検討にあたって、どの項目を重視すべきと思いますか？

次のA～Fの項目それぞれについて、「特に重視すべき」～「重視する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。	特に重視すべき	やや重視すべき	どちらともいえない	あまり重視する必要はない	重視する必要はない
A 物流拠点（新千歳空港、苫小牧港等）への所要時間短縮	1	2	3	4	5
B 苫小牧市の医療拠点への搬送時間の短縮	1	2	3	4	5
C 信号箇所、急カーブ、事故危険区間の回避	1	2	3	4	5
D 津波浸水区間の回避と災害時の代替路の確保	1	2	3	4	5
E 災害時の迅速な啓開・復旧活動と避難時のアクセス性	1	2	3	4	5
F 札幌市や新千歳空港から観光地への移動時間の短縮	1	2	3	4	5

回答は返信はがきに記入願います

質問2 対策案（ルート帯案）の比較にあたって、どのようなことに配慮して計画すると良いと思いますか？

次のA～Dの項目それぞれについて、「特に配慮すべき」～「配慮する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。	特に配慮すべき	やや配慮すべき	どちらともいえない	あまり配慮する必要はない	配慮する必要はない
A 家屋や施設など地域への影響が小さいこと	1	2	3	4	5
B 軽種馬牧場や牧草地、山地部など自然環境への影響が小さいこと	1	2	3	4	5
C 工事中の交通規制による影響が小さいこと	1	2	3	4	5
D 建設に要する費用が安いこと	1	2	3	4	5

回答は返信はがきに記入願います

質問3 インターチェンジとのアクセスを検討するにあたって、どのようなことに配慮すべきと思いますか？

次のA～Dの項目それぞれについて、「特に配慮すべき」～「配慮する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。	特に配慮すべき	やや配慮すべき	どちらともいえない	あまり配慮する必要はない	配慮する必要はない
A 市街地から円滑にアクセスできること	1	2	3	4	5
B 出荷施設等の物流拠点に円滑にアクセスできること	1	2	3	4	5
C 役場や自衛隊等の防災拠点に円滑にアクセスできること	1	2	3	4	5
D 道の駅など主要な観光拠点に円滑にアクセスできること	1	2	3	4	5

回答は返信はがきに記入願います

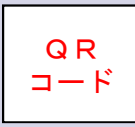
質問4 その他、配慮すべき項目や、今後の道路整備についてのご意見等がありましたらご自由にお書きください。

回答は返信はがきに記入願います

41

5-8) 第2回アンケート調査(案)

- ・回答は同封の郵便はがきにご記入ください。
- ・回答用の郵便はがきは、切手を貼らずに最寄りの郵便ポストへ投函して下さい。
なお投函は、令和●年●月●日(●)までをお願いします。
- ・インターネットによる回答も可能になっておりますので、下記アドレスからアクセス願います。
日高自動車道(静内～三石間)道路計画に関する意見聴取 Web回答用ページ
URL <http://○○○○>
※室蘭開発建設部ホームページからもアクセス可能です。



アンケートの記入例

郵便はがき

料金受取人払

室蘭局承認

57

差出有効期間
令和2年●月●日まで
(切手不要)

北海道 室蘭市 入江町1番地14
室蘭開発建設部 道路計画課

日高自動車道(静内～三石間)
道路計画に関する意見募集係 行

■あなた自身のことについて(記入または該当する番号に○)

住所 〒000-0000 北海道 日高 市(郡)新ひだか(町)村

性別 ①男性 ②女性 年齢: 50 歳代

職業 ①会社員 ②公務員 ③農業 ④漁業 ⑤林業 ⑥観光業
⑦学生 ⑧主婦 ⑨物流・輸送 ⑩商業 ⑪工業
⑫無職 ⑬その他()

■自動車運転する頻度を教えてください(該当する1つに○)

①毎日 ②週数回 ③月数回 ④ほとんど運転しない ⑤運転しない

■国道235号静内～三石間の利用頻度を教えてください(該当する1つに○)

①毎日 ②週数回 ③月数回 ④あまり利用しない ⑤利用したことがない

■静内～三石間の主な利用目的を教えてください(該当する全てに○)

①通勤・通学 ②通院 ③家事・買物 ④仕事(営業・運送等)
⑤観光・レジャー ⑥その他()

■前回の第1回アンケートに回答しましたか(どちらかに○)

①回答した ②回答していない

日高自動車道(静内～三石間)第2回アンケート 回答欄

質問1. 対策案(ルート帯案)の検討にあたって、どの項目を重視すべきと思いますか?

以下のA～Fの項目について、該当するもの1つに○をつけてください

	特に重視すべき	やや重視すべき	どちらともいえない	あまり重視する必要はない	重視する必要はない
A.物流拠点への時間短縮	①	2	3	4	5
B.医療拠点への時間短縮	1	②	3	4	5
C.事故危険区間の回避	1	2	③	4	5
D.代替路の確保	1	2	3	④	5
E.迅速な啓開・復旧	1	2	3	4	⑤
F.観光地への時間短縮	①	2	3	4	5

質問2. 対策案(ルート帯案)の比較にあたって、どのようなことに配慮して計画すると良いと思いますか?

以下のA～Dの項目について、該当するもの1つに○をつけてください

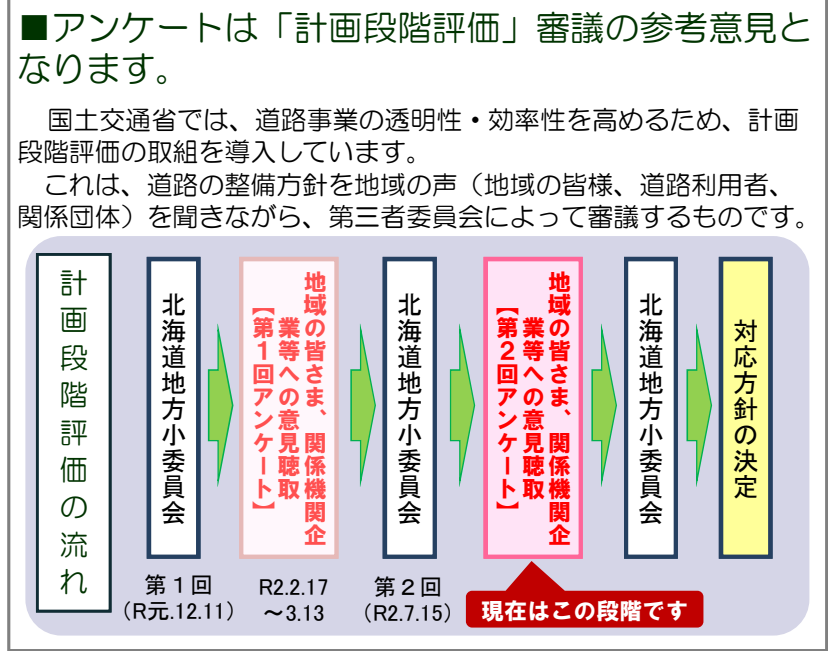
	特に配慮すべき	やや配慮すべき	どちらともいえない	あまり配慮する必要はない	配慮する必要はない
A.地域への影響	①	2	3	4	5
B.自然環境への影響	1	②	3	4	5
C.工事中の影響	1	2	③	4	5
D.建設に要する費用	1	2	3	④	5

質問3. インターチェンジとのアクセスを検討するにあたって、どのようなことに配慮すべきだと思いますか?

以下のA～Dの項目について、該当するもの1つに○をつけてください

	特に配慮すべき	やや配慮すべき	どちらともいえない	あまり配慮する必要はない	配慮する必要はない
A.市街地からのアクセス	①	2	3	4	5
B.物流拠点へのアクセス	1	②	3	4	5
C.防災拠点へのアクセス	1	2	③	4	5
D.観光拠点へのアクセス	1	2	3	④	5

質問4. その他、配慮すべき項目や、今後の道路整備についてのご意見等がありましたらご自由にお書きください。



アンケートについてのお問い合わせ先

<調査主体>
北海道開発局 室蘭開発建設部 道路計画課
日高自動車道(静内～三石間)
道路計画に関する意見募集係
〒051-8790 室蘭市入江町1番地14
電話 0143-25-7046

安全で快適な地域づくりのために
みなさまのご意見をお待ちしております。

国土交通省

本調査は、日高地域の道路計画について地域にお住まいの皆さまや道路利用者のご意見を広くお聞きすることを目的とするものです。そのため、回答用の郵便はがきに記入されたことは、この目的以外には使用いたしません。

回答いただいた個人に関する情報は、本人の同意なく第三者に開示・提供することはありません。(法令により開示を求められた場合を除きます)